

令和6年度
授業シラバス
【3年次】

志高く
未来を
創る

題字/松岡 篤志（元西高教諭）

北海道函館西高等学校

北海道函館西高等学校 文学国語 年間指導計画(4単位)				A	40	時間	B	90	時間	C	時間	計	130	時間
				単 元 名										
				4月	4・5月	6月	5・6月	6月	6・7月	8月	9月	10月	11月	12月・1月
科目の目標				をた小 深人説 める間 や、お けるけ 描か れ描 										

北海道函館西高等学校 国語教養 年間指導計画(3単位)				A 45 時間		B 60 時間		C 0 時間		計 105 時間									
科目の目標 一般教養としての国語の知識及び表現するための基本 技能の習得を目指す。 「話す・聞く・読む・書く」能力を育て、自己を適切にかつ量 かに表現したり、目的や場に応じて効果的に表現したり する能力を育てる。				単 元 名															
				4月 共 感 事 項	5月 視 点 事 項	6月 情 報 事 項	7月 外 に 発 信 事 項	8月 自 分 の 意 見 を 伝 え る	9月 目 的 的 意 図 を 伝 え 合 う	10月 特 徴 を 捉 え 直 す	10月 話 の 展 開 や 構 成 を 工 夫 す る	11月 総 合 的 な 国 語 の 教 養	12月 総 合 的 な 国 語 の 教 養	1月 総 合 的 な 国 語 の 教 養	1月	2月	3月		
科目の目標																			
(1) 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとする。																			
(2) 思考力、表現力、判断力等 論理的に考える力や深く共感したり量かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の想いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																			
(3) 学びに向かう力・人間性等 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																			
学年	3年次(選択)	担当	佐藤和範・大地博																
使用教科書				特になし															
指導領域				A 話すこと・聞くこと															
授業時数の計				45 時間															
指導領域				B 書くこと															
授業時数の計				60 時間															
指導領域				C 読むこと															
授業時数の計				0 時間															
指 導 事 項																			
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○															
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬重と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。		○														
		ウ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や言葉の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語彙を蓄え言葉を量にすること。									○	○	○					
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。			○						○							
	(2)	カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。	○								○							
		ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。		○														
		イ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。			○					○								
		ウ	推論の仕方を理解し使うこと。				○				○		○						
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。			○						○							
思考力、表現力、判断力等	(3)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。					○						○					
		ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。									○	○	○					
		イ	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。	○								○							
		ウ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。								○								
		エ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や論拠を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。	○		○					○		○						
	A 話すこと・聞くこと	オ	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。						○					○					
		ア	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	○								○	○	○					
		イ	目的や場に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。		○														
		ウ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。				○												
		エ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、視覚の示し方や説明の仕方を考えると、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。					○											
B 書くこと	イ	目的や場に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を捉えたり、読み手からの刺激などを踏まえて、自分の文章の特色や課題を捉え直したりすること。									○	○	○	○					
	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。																	
	イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。																	
	教 材 名																		
	教材 ことのは・プリント・ICT				教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT	教材 ことのは・プリント・ICT						

北海道函館西高等学校 実践国語 年間指導計画(2単位)				A 0 時間		B 10 時間		C 60 時間		計 70 時間					
科目の目標 平易な文章の読解に取り組み、基本的な漢字・語彙の知識を身につけ、現代文読解の基礎力を養う。文章の内容を的確に要約したり、自分の意見を適切に表現したりできるようにする。 (1) 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 思考力、表現力、判断力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 学びに向かう力、人間性等 実社会に必要なコミュニケーション能力、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				単元名											
				4月 小説 テスト	5月 評論 の読解・要約・小テスト	6月 随筆 の読解・要約・小テスト	7月 小説 の読解・要約・小テスト	8月 評論 の読解・要約・小テスト	9月 志望理由書 添削・小説の読解・要約・小テスト	10月 志望理由書 添削・随筆の読解・要約・小テスト	11月 評論 の読解・要約・小テスト	12月 評論 の読解・要約・小テスト	1月 随筆 の読解・要約・小テスト	2月	3月
学年	3年次(選択)	担当	大川伸二・大地博												
使用教科書		特になし													
指導領域		A 話すこと・聞くこと													
授業時数の計		0 時間													
指導領域		B 書くこと													
授業時数の計		10 時間													
指導領域		C 読むこと													
授業時数の計		60 時間		6	8	8	8	6	4	2	8	6	4		
指導事項															
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、語彙や思考を支える働きがあることを理解すること。	○									○		
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬重と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。		○				○	○					
		ウ	常用漢字の読みと慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。						○	○					
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。		○	○					○		○		
	(2)	カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し、使うこと。				○	○				○			
		ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。	○									○		
		イ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。			○					○				
		ウ	推論の仕方を理解し、使うこと。		○										
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、使うこと。				○					○			
(3)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め、使うこと。						○		○					
	ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。								○					
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	ア	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。											
			イ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。											
			ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機軸を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。											
エ			論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。												
オ			論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。												
B 書くこと	ア	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。						○							
	イ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。													
	ウ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。						○	○						
	エ	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を鑑みたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特色や課題を捉え直し、直すこと。							○						
	オ	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。													
C 読むこと	イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。													
	教材名														
				ルート現代文1・プリント	ルート現代文1・プリント	ルート現代文1・プリント	ルート現代文1・プリント	ルート現代文1・プリント	書・ルート現代文2・志望理由	書・ルート現代文2・志望理由	ルート現代文2・プリント	ルート現代文2・プリント			

3 年次		選択 3 8			
教科		科目	単位数	学級編成	担当者
国語		小論文発展	2	選択授業	大川 伸二・長澤 元子・大地 博
教科書					
補助教材		サクセス小論文講座（桐原書店）			
目標	科目	文章の構成、表現方法などを学び、800字から1200字程度の小論文を書くことができる。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・基礎的な言語事項の学習を習慣化し、応用知識を身につけることができる。 ・原稿用紙の使い方にのっとり自分の考えを文法的に正しく書くことができる。		・文章表現の学習を通して、目的や場に応じた適切な表現により、自分の思考を表現することができる。 ・評論文・随筆の読解演習やデータの読み取りを通して、自分の考えを深め、発展させることができる。		・言語文化に対する関心を深め、積極的な態度で言語活動に参加することができる。 ・他の文章や他人の考えを参考にし、自分の考えを表現する方法を追求することができる。
評価の方法	・ワークブックの提出		・要約演習 ・小論文演習		・ワークブックの仕上げ ・グループ学習、討議 ・調べ学習

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・オリエンテーション ・文章を書く基本	- 小論文とは - 正しい表現の仕方 - 論理的な文章の学習 - 段落構成	◎		○	- 作文と小論文の違いを理解することができる。 - 自分のスケジュールに照らし合わせることができる。 - 原稿用紙の表記を理解することができる。 - 段落構成を理解することができる。 - わかりやすい表現を心がけることができる。
6-8	12	・小論文とは何か ・小論文の書き方	- 評論キーワードの理解・背景知識の習得 - 文章の読解・要約 - 課題小論文	◎		○	- 一般的に現代社会で問題とされている分野の背景知識を広げることができる。 - 評論文におけるキーワードについて学習を深めることができる。 - 習得した知識から派生して、自分の興味・関心のある分野について調べ、課題を見つけることができる。
前期期末考査							
9-11	22	・さまざまな出題形式 ・バリエーション豊かな課題への対応	小論文演習		◎	○	- 課題文を俯瞰し、要約することができる。 - テーマに即した考えを広げ、論点をまとめて文章化することができる。 - 要約に対して、自分の考えを根拠とともにまとめることができる。 - 志望校・目標校を絞り込み、将来の理想をイメージすることができる。 - 求められている生徒像を理解し、自分を振り返ることができる。
後期中間考査							
12-3	20	・よりよい小論文のために	発展学習		◎	○	- 総合型入試に向けた文章を作成することができる。 - 求められる学生像を鑑みて文章に反映させることができる。 - 一定の時間内にこれまで学習した成果を要領よく発揮させることができる。 - 複数の資料を自分の主張の根拠とすることができる。 - 客観的な情報から自分の考えを論理的に表現することができる。
合計	70						

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		地理探究	3	選択授業	藤田 省吾	
教科書		地理探究（二宮書店）				
補助教材						
目標	科目	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができる。		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めることができる。	
評価の方法	・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動		・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動		・単元末考査 ・ワークシート ・探究活動	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第Ⅱ編現代世界の地誌的考察 第1章地域区分 第2章現代世界の諸地域	1 現代世界の地域区分 2 中国 3 朝鮮半島	◎	○	◎	位置や分布、地域などに着目して、課題を追究したり解決動を通して、次の事項を身に付ける。 ・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、世界を幾つかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解することができる。 ・世界や世界の諸地域について、各種の主題図や資料を踏まえて地域区分をする地理的技能を身に付けることができる。 ・世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
6-8	18	第2章現代世界の諸地域	4 東南アジア 5 南アジア 6 西アジア・中央アジア 7 北アフリカ・サブサハラフリカ	◎	○	◎	空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付ける。 ・幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、諸地域に見られる地域的特色や地球の課題などについて理解することができる。 ・幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解することができる。 ・現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球の課題などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
9-11	33	第2章現代世界の諸地域	8 ヨーロッパ 9 ロシア 10 アングロアメリカ 11 ラテンアメリカ 12 オーストラリア 13 ニューゼalandと島嶼国	○	◎	◎	空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付ける。 ・幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、諸地域に見られる地域的特色や地球の課題などについて理解することができる。 ・幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解することができる。 ・現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球の課題などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。
12-3	30	第Ⅲ編現代世界におけるこれからの日本の国土像	現代日本に求められる国土像	○	◎	◎	空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究する活動を通して、次の事項を身に付ける。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究を基に、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解することができる。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現することができる。
合計	105						

選択 3 1						
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
	世界史探究	3	選択授業		佐野 秀一郎	
教科書	詳説 世界史（山川出版社）					
補助教材	ニューステージ 世界史詳覧					
目標	科目	1 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。 2 過去から現在までの変化の道筋を知ること、現在直面している世界の様相、社会の様相がどのようにしてできあがってきたのかを理解する。 3 歴史の中で生きた人々たちの生き方、考え方を検討し、自分の生き方、考え方を豊かにしていく。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	歴史上の事柄を、地域に分けて、時系列に理解できるようにする。		歴史上の事柄を、関連づけて説明できるようになる。		関心を持った事柄に対して、自分で調べたり、問を立てたりすることができる。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	・北宋、南宋、征服王朝、モンゴル帝国の盛衰・16世紀の世界・ルネサンス、宗教改革・主権国家体制、激化する覇権競争・東アジア世界の帝国	◎	○	○	・中世を脱却し、新たな価値観が生み出され、世界が拡大していく過程を理解する。ヨーロッパの海外進出によって、大西洋をはさんだ分業体制が確立したことを理解させる。 ・明を中心とする朝貢貿易が第2次大交易時代をもたらしたことを理解させる。 ・ポルトガルやオランダも交易に参入したことを理解させる。 ・ルネサンスがもたらした芸術・思想・科学の変革と、宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解させる。 ・主権国家体制の成立は、覇権競争の激化をもたらしたことを理解させる。
6-8	18	第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動	・西アジア南アジア東南アジア諸国と第2次大交易時代 ・産業革命 ・バグダッド・ブリタニカ ・フランス革命とナポレオン ・南北アメリカの革命 ・ヨーロッパの帝国主義 ・西アジアの改革 ・アフリカの分割 ・インドの植民地化 ・東南アジアの植民地化 ・中華帝国の崩壊 ・アメリカの帝国主義	◎	○	○	・イギリス産業革命によって、資本主義社会が確立したことを理解させる。 ・ウィーン体制の確立から1848年革命に至る過程を理解させる。 ・工業化が進んだイギリスとフランスに対し、遅れて工業化を進めたイタリア・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの在り方を理解させる。 ・19世紀の欧米で生まれた新しい文化が社会生活を一変させたことを理解させる。 ・アメリカ独立の歴史的意義とラテンアメリカへの影響を理解させる。 ・フランス革命の推移とともにナポレオンのヨーロッパ支配がもたらした歴史的意味を理解させる。 ・帝国主義の在り様から世界の一体化がはかられた構造を理解させる。 ・列強の帝国主義的な植民地獲得競争に対して、諸地域の民族がどのような抵抗を示したのかを理解させる。
前期期末考査							
9-11	33	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第1次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制と国際協調 ・アジアのナショナリズム台頭 ・世界恐慌とファシズム ・満州事変と日中戦争 ・第2次世界大戦	◎	○	○	・総力戦としての第一次世界大戦と戦後、世界の中心がアメリカに移ったことを理解させる。 ・西アジア・インド・東南アジア・東アジアの戦間期の民族独立運動を理解させる。 ・世界恐慌とファシズムの台頭と東アジアでの日中間の動向を理解させる。 ・連合国の勝利で終わった第二次世界大戦の意味を理解させる。
後期中間考査							
12-3	30	第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	・冷戦時代の国際関係 ・戦後のソ連・ロシアと東ヨーロッパ ・戦後の西アジア ・戦後の東アジア ・現代の世界	◎	○	○	・緊張と緩和を繰り返した東西冷戦時代の国際関係を理解させる。 ・国際金融活動の動向や経済格差などグローバル化の負の部分の理解させる。 ・それぞれの諸地域の戦後がどのような政治・経済・外交などの取り組みを進めていったのかを理解させる。 ・「9.11」以降のアメリカの在り方を理解させる。 ・地球環境の危機に対して、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について認識させる。
合計	105						

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		日本史探究	3	選択授業	黒澤 剛・吉田 修平	
教科書		詳説 日本史				
補助教材		最新 日本史図表				
目標	科目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者としての資質と自覚を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぶことができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 原始・古代からの我が国の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。 ・ 歴史的事象に関わる資料や情報を収集、選択し、活用することによって、歴史的な事象を追求する姿勢を身につけているか。		我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか。		歴史的な事象に関心を持ち、意欲的に追求しようとしているか。	
評価の方法	・ 授業態度 ・ ワークシートの記述内容 ・ 小テスト ・ 定期考査の問題		・ 授業態度 ・ グループワーク、発表の状況 ・ ワークシートの記述内容 ・ 定期考査の問題		・ 授業態度 ・ ワークシート等の提出状況 ・ 定期考査の問題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳と大和政権 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成	◎	○	○	・旧石器時代と縄文時代について理解することができる。 ・弥生時代について理解することができる。 ・古墳時代とヤマト政権について理解することができる。 ・飛鳥時代について理解することができる。 ・律令国家の成立について理解することができる。 ・奈良時代について理解することができる。 ・天平文化について理解することができる。 ・平安時代初期について理解することができる。 ・弘仁・貞観文化について、その特徴を理解することができる。
6-8	18	第3章 貴族政治の国風文化 第4章 中世社会の成立	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	◎	○	○	・摂関政治について理解することができる。 ・国風文化について、その特徴を理解することができる。 ・律令制の崩壊と土地制度・税制の変化について理解することができる。 ・武士の発生の背景と台頭について理解することができる。 ・院政と平氏政権について理解することができる。 ・源平の争乱から鎌倉幕府の成立について理解することができる。 ・執権政治の展開と承久の乱以降の社会の変化について理解することができる。 ・武士の社会の特徴を理解することができる。 ・鎌倉時代における経済の発達について考察することができる。
前期期末考査							
9-11	33	第5章 中世社会の成立 第6章 武士社会の成長	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 1 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立へ 2 東アジアとの交易、琉球と蝦夷ヶ嶋	◎	○	○	・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた大きな影響について考察し、理解を深めることができる。 ・公家中心の文化から武家の台頭に伴う武家文化の隆興へ転換していくことを理解することができる。 ・鎌倉仏教の成立と歴史的影響について考察することができる。 ・鎌倉幕府滅亡の過程と建武政権、さらに室町幕府成立から南北朝の騒乱に至る流動期の時代の理解を深めることができる。 ・3代将軍足利義満の事情と室町幕府の仕組みについて理解することができる。 ・日明貿易・日朝貿易の意義、琉球と蝦夷ヶ嶋と本土の交流について考察することができる。
後期中間考査							
12-3	30	第6章 武士社会の成長	1 鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立 2 応仁の乱とその影響 3 室町文化 4 戦国大名の登場	◎	○	○	・庶民の台頭による一揆の発生、それに反比例するように幕府権力が弱体化していく過程を考察することができる。 ・応仁の乱の歴史的な意義を理解し、それ以降戦乱が全国各地へ波及していくことを考察することができる。 ・室町幕府の文化の特徴を理解し、これが日本文化の典型とされていることを考察することができる。 ・戦国時代の特徴を理解し、中世から近世への過渡的段階であることを考察することができる。
(後期期末考査)							
合計	105						

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地理歴史		地歴応用	3	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書						
補助教材		基本白地図 最新版（二宮書店）				
目 標	科 目	歴史分野、地理分野を問わず、一般常識的な知識を身につけ、教養を高める。 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 公務員試験の社会科学分野や適性試験に対応できるような問題演習を行う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。		現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的・多角的に考察しようとする。		現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究しようとする。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・白地図		・小テスト ・定期考査 ・白地図 ・プレゼンテーション		・定期考査 ・白地図 ・プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・地球儀や地図からとらえる現代世界 ・白地図 ・小テスト ・公務員試験問題演習	◎	◎	○	・公務員試験にむけての実力を養成する。 ・用途に応じて適切な図法を用いることが理解できる。 ・日本の抱える領土問題が理解できる。 ・第二次世界大戦後に結成された国家群の特徴について理解できる。 ・グローバル化と日本の産業構造について理解できる。 ・人や情報の国際移動を通じて、一体化する現代世界の動向と課題について考察できる。 ・国際移動の特徴とその社会的背景について日本人の海外旅行を事例に考察できる。 ・諸地形の特徴について理解できる。
6-8	18	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・公務員試験問題演習 ・世界の諸地域の暮らしと文化 ・白地図 ・小テスト	◎	◎	○	・公務員試験にむけての実力を養成する。 ・世界の各気候帯とそこに居住する人々の生活の特徴について理解できる。 ・言語と宗教を軸に、現代世界における文化の多様性について理解できる。 ・東アジアの生活・文化の特徴について理解できる。 ・東南アジアの生活・文化の特徴について理解できる。 ・南アジアの生活・文化の特徴について理解できる。
		前期期末考査					
9-11	33	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・公務員試験問題演習 ・世界の諸地域の暮らしと文化 ・白地図 ・小テスト	○	◎	◎	・公務員試験、面接にむけての実力を養成する。 ・中央、西アジア・北アフリカの生活・文化の特徴について理解できる。 ・ヨーロッパの生活・文化の形成について理解できる。 ・ロシアとその周辺諸国の生活・文化について理解できる。 ・北アメリカの生活・文化の多様性について理解できる。 ・中央・南アメリカの生活・文化の特徴について理解できる。 ・オセアニアの生活・文化の特徴について理解できる。
		後期中間考査					
12-3	30	現代世界の特色と諸課題の地理的考察 生活圏の諸課題と地理的考察	・公務員試験問題演習 ・地球的課題の地理的考察 ・日常生活と結びついた地図 ・白地図 ・小テスト ・プレゼンテーション	○	○	◎	・地球的課題の現状やメカニズムについて考察し理解できる。 ・地図はその目的に応じてさまざまな種類・表現のものを理解できる。 ・取り組みについて振り返りをさせる。
		(後期期末考査)					

合計 105

3 年次		選択 3 5				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		倫理	2	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書		詳述倫理 (実教出版)				
補助教材						
目 標	科 目	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。		他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション		・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	青年期の課題と人間の自覚	・青年期の意義 ・青年期の課題	◎	○	○	・人間の特質について多面的・多角的に考察し理解を深める。 ・青年期の意義を理解し、その知識を身につけている。
6-8	12	人間としての自覚	・ギリシャ思想 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教	◎	○	○	・自然哲学とソフィストについて理解できている。 ・ソクラテスの考え方や生き方について理解できている。 ・プラトンのイデア論とアリストテレスの現実主義とを比較できている。 ・古代ユダヤ教の教えについて理解できている。 ・イエスの説いたアガペーの意義について理解できている。 ・キリスト教の誕生とその後の展開について理解できている。 ・イスラームの成立の背景と偶像崇拝の禁止等の特徴を理解できている。 ・仏教以前のインドの思想について理解できている。 ・ブツクの教えを理解し、その世界観や人間観の特徴を考察できている。 ・儒家思想の展開について理解できている。 ・老荘思想について儒家思想との比較ができている。 ・芸術の持つ意義について理解できている。
		前期期末考査	・中国思想 ・芸術と人生				
9-11	22	日本人としての自覚	・古代日本の思想 ・日本の仏教思想 ・近代日本の思想 ・西洋思想の受容と展開・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人	◎	○	○	・日本の風土と日本人の気質の特徴について理解できている。 ・古代に日本人の宗教観や道徳観について考察できている。 ・日本で受容された仏教の特徴とその展開について理解できている。 ・日本文化と仏教との関係について理解できている。 ・日本で受容された儒教の特徴について理解できている。 ・江戸時代の多様な思想展開について考察できている。 ・水戸学など幕末において求められた思想について理解できている。 ・啓蒙思想と自由民権思想を理解し、日本の近代化の課題について考察できている。 ・日本におけるキリスト教の受容のあり方について理解できている。 ・西洋思想の受容と日本の近代化との関わりに関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 ・日本の近代化における課題を多面的・多角的に考察できている。 ・明治以降の近代化における思想の変遷を理解し、その知識を身につけている。
		後期中間考査					
12-3	20	現代と倫理	・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人 ・人間への新たな問い ・社会参加と幸福	◎	○	○	・ルネサンスの特徴とそれがもたらした世界観や人間観について理解できている。 ・ルターやカルヴァンの思想と宗教改革が与えた影響について理解できている。 ・モラリストの思想について理解できている。 ・近代の自然科学及び機械論的自然観の特徴を理解し、それらが与えた影響について考察できている。 ・ペーコンとデカルトの思想について両者を比較しながら理解できている。 ・功利主義思想の特徴とその意義について理解できている。 ・実証主義や社会進化論、プラグマティズムの思想について、理解できている。 ・社会主義思想及びマルクスの人間観・社会観を理解し、現代の貧困や格差などの問題について考察できている。 ・理性中心主義を批判についても、思想を理解し、近代の人間観の課題について考察できている。 ・フランクフルト学派の思想を理解し、近代的な理性の問題点について考察できている。

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
地歴		日本史探究		4	選択授業	黒澤 剛
教科書		詳説 日本史				
補助教材		最新 日本史図表				
目標	科目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者としての資質と自覚を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・原始・古代からの我が国の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。 ・歴史的事象に関わる資料や情報を収集、選択し、活用することによって、歴史的事象を追求する姿勢を身につけているか。		我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか。		歴史的事象に関心を持ち、意欲的に追求しようとしているか。	
評価の方法	・授業態度 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト ・定期考査の問題		・授業態度 ・グループワーク、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・定期考査の問題		・授業態度 ・ワークシート等の提出状況 ・定期考査の問題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳と大和政権 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成	◎	○	○	・旧石器時代と縄文時代について理解することができる。 ・弥生時代について理解することができる。 ・古墳時代とヤマト政権について理解することができる。 ・飛鳥時代について理解することができる。 ・律令国家の成立について理解することができる。 ・奈良時代について理解することができる。 ・天平文化について理解することができる。 ・平安時代初期について理解することができる。 ・弘仁・貞観文化について、その特徴を理解することができる。
6-8	24	第3章 貴族政治の国風文化 第4章 中世社会の成立	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	◎	○	○	・摂関政治について理解することができる。 ・国風文化について、その特徴を理解することができる。 ・律令制の崩壊と土地制度・税制の変化について理解することができる。 ・武士の発生の背景と台頭について理解することができる。 ・院政と平氏政権について理解することができる。 ・源平の争乱から鎌倉幕府の成立について理解することができる。 ・執権政治の展開と承久の乱以降の社会の変化について理解することができる。 ・武士の社会の特徴を理解することができる。 ・鎌倉時代における経済の発達について考察することができる。
前期期末考査							
9-11	44	第5章 中世社会の成立 第6章 武家社会の成長	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 1 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立へ 2 東アジアとの交易、琉球と蝦夷ヶ嶋	◎	○	○	・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた大きな影響について考察し、理解を深めることができる。 ・公家中心の文化から武家の台頭に伴う武家文化の隆興へ転換していくことを理解することができる。 ・鎌倉仏教の成立と歴史的意義について考察することができる。 ・鎌倉幕府滅亡の過程と建武政権、さらに室町幕府成立から南北朝の騒乱に至る流動期の時代の理解を深めることができる。 ・3代将軍足利義満の事情と室町幕府の仕組みについて理解することができる。 ・日明貿易・日朝貿易の意義、琉球と蝦夷ヶ嶋と本土の交流について考察することができる。
後期中間考査							
12-3	40	第6章 武家社会の成長	1 鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立 2 応仁の乱とその影響 3 室町文化 4 戦国大名の登場	◎	○	○	・庶民の台頭による一揆の発生、それに反比例するように幕府権力が弱体化していく過程を考察することができる。 ・応仁の乱の歴史的意義を理解し、それ以降戦乱が全国各地へ波及していくことを考察することができる。 ・室町幕府の文化の特徴を理解し、これが日本文化の典型とされていることを考察することができる。 ・戦国時代の特徴を理解し、中世から近世への過渡的段階であることを考察することができる。
(後期期末考査)							
合計	140						

3 年次		選択 3 6、3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		政治・経済	2	選択授業	吉田 修平・高橋 英典	
教科書		詳述政治・経済（実教出版）				
補助教材		なし				
目 標	科 目	広い視野に立つて、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けることができる。 ・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用できる。		現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立つて多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。		主体的に学習に取り組む態度 現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めることができる。
	評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション		・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1編 現代の政治 第1章 現代国家と民主政治 第2章 日本国憲法と基本的人権	・民主政治の成立 ・民主政治の基本原則 ・民主政治のしくみと課題 ・世界のおもな政治制度 ・日本国憲法の成立 ・日本国憲法の基本原則 ・自由と生きる権利(1) ・自由と生きる権利(2) ・平等と生きる権利 ・社会権と参政権・請求権 ・新しい人権 ・人権の広がりや公共の福祉 ・ワークシート ・小テスト	◎	◎	○	・民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究できる。 ・国民主権を原理とする民主政治の本質や現代政治の様々な特質について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現できる。 ・現代政治の特質に関する情報を収集し、適切に活用できる。 ・民主政治の基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けることができる。 ・主権者として憲法成立過程と基本的人権の内容を意欲的に追究できる。 ・人権問題を多面的・多角的に考察し、根拠と考察を様々な方法で表現できる。 ・人権問題の時事的な資料を収集し、適切に活用できる。 ・憲法が普遍性を持つことに気づき、人権が生まれながらの権利であること、他者の権利を尊重することを理解し、知識を身に付けることができる。
6-8	12	第3章 日本の政治制度と政治参加 第4章 現代の国際政治	・政治機構と国会 ・内閣と行政機能の拡大 ・公正な裁判の保障 ・地方自治と住民福祉 ・政党政治 ・選挙制度 ・世論と政治参加 ・国際社会と国際法 ・国際社会の変化 ・国際連合と国際協力 ・第二次世界大戦後の国際政治 ・冷戦終結後の国際政治 ・軍拡競争から軍縮へ ・ワークシート ・小テスト	◎	◎	○	・現代政治への関心が高まり、主権者意識を身に付けることができる。 ・政治について考察し、政治の在り方を公正に判断し、その結果を適切に表現できる。 ・主権者として判断に必要な情報を適切に選択し、活用できる。 ・日本の政治制度について理解し、その知識を身に付けることができる。 ・国際政治への関心を高めることができる。 ・国際政治の課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 ・国際政治の時事的な資料の情報を適切に選択し、活用できる。 ・国際政治を理解し、その知識を身に付けることができる。
前期期末考査							
9-11	22	第5章 日本の平和主義と国際平和 第2編 現代の経済 第1章 現代の経済社会	・平和主義と自衛隊 ・日米安全保障体制の変化 ・21世紀の平和主義 ・日本の外交と国際社会での役割 ・経済社会の姿容 ・経済主体と市場の働き ・企業の役割 ・国民所得 ・経済成長と国民の福祉 ・金融の役割 ・日本銀行の役割 ・財政の役割と租税 ・日本の財政の課題 ・ワークシート ・小テスト	◎	◎	○	・平和主義の内容を意欲的に追究できる。 ・安全保障の問題を多面的・多角的に考察し、根拠と考察を様々な方法で表現できる。 ・安全保障の問題の時事的な資料を収集し、適切に活用できる。 ・平和主義、安全保障について理解し、その知識を身に付けることができる。 ・現代の経済社会への基本的な問題について関心を高め、意欲的に課題を追究することができる。 ・経済活動に対する責任など、現代の経済社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、公正に判断して、適切に表現することができる。 ・現代経済の諸問題の資料を収集し、幸福・正義・公正などの視点から適切に選択して活用することができる。 ・市場経済の意義と機能その限界など、現代経済の基礎的な知識や学び方を身に付けることができる。
後期中間考査							
12-3	20	第2章 現代の日本経済と福祉の向上 第3章 現代の国際経済 第3編 現代社会の諸課題	・戦後復興から高度経済成長へ ・安定成長からバブル経済へ ・日本経済の課題 ・中小企業と農業 ・消費者問題 ・公害防止と環境保全 ・労働問題と労働者の権利 ・今日の労働問題 ・社会保障の役割 ・貿易と国際収支 ・外国為替市場のしくみ ・第二次世界大戦後の国際経済 ・国際経済の動向(1) ・国際経済の動向(2) ・発展途上国の諸問題 ・経済協力と日本の役割 ・ワークシート ・小テスト	◎	◎	◎	・現代の日本経済の動向や雇用・労働、環境、社会保障に対する関心を高め、経済社会の一員としての意識を身に付けることができる。 ・消費者、労働、社会保障などについて多面的・多角的に考察し、様々な立場に立つて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。 ・日本経済の課題に関する時事的な資料の情報を様々なメディアを通して収集できる。 ・雇用・労働、社会保障、公害などについて理解し、その知識を身に付けることができる。 ・国際経済への関心を高めることができる。 ・国際経済の課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 ・国際経済の時事的な資料の情報を適切に選択し、活用できる。 ・国際経済を理解し、その知識を身に付けることができる。 ・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を、国内外を問わず適切に選択し、活用できる。 ・現代の日本がかかえるさまざまな課題について、国際的な視点も踏まえながら理解し、その知識を身に付けることができる。 ・国際関係に関わる諸資料を適切に選択し、活用できる。 ・国際社会がかかえるさまざまな課題を理解し、その知識を身に付けることができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 1、3 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		公民応用	3	選択授業	吉田 修平・高橋 英典	
教科書						
補助教材		ズームアップ公共資料（災教出版）				
目標	科目	広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題等について客観的に理解させるとともに、主体的に考察し公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄を理解し、それに関わる知識を身に付けている。		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		現代の社会的な事柄と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄を理解し、それに関わる知識を身に付けている。		現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見出し、多角的・多面的に考察、多様な考え方を踏まえて公正に判断し、考察過程や結果を適切に表現しようとしている。	現代社会と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究し、より良い社会の実現に向けて参加・協力する態度を身に付け、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。	
評価の方法		・小テスト ・定期考査 ・ワークシートの記述内容 ・授業態度		・小テスト ・定期考査 ・ワークシートの記述内容 ・プレゼンテーション、グループ討議の状況 ・授業態度		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	24	現代社会の諸問題 現代社会と人間としてのあり方生き方	・環境 ・生命と情報 ・青年期の形成 ・他者と共に生きる倫理 ・現代の国家と民主政治 ・日本国憲法と国民生活	◎	◎	○	・環境、生命、情報の問題点を理解し、考察できる。 ・青年期の特徴を理解できる。 ・モラトリアムの意味と問題理解できている。 ・働くことの意義について考察できる。 ・外来文化の需要と日本の生活文化や伝統、宗教の特色の意義が理解できる。 ・基本的人権の歴史的な発展を理解できる。 ・法の支配の概念が理解できる。 ・民主政治の様々な形態を理解できる。 ・日本国憲法の制定過程について理解できる。 ・国会・内閣・裁判所の役割について理解できる。 ・憲法第9条と、日本の安全保障について考察することができる。
6-8	18	現代社会と人間としてのあり方生き方	・日本国憲法と国民生活 ・国際政治の動向 ・現代の経済社会と政府の役割	◎	◎	○	・地方自治の意味や役割について理解し、自分事として捉えることができる。 ・政党の役割、選挙の仕組みを理解し、主体的な主権者として自覚することができる。 ・国際社会の成り立ちについて理解できる。 ・冷戦の始まりと終結、新たな国際紛争などについて考察できる。 ・核兵器のあり方について考察できる。 ・世界の民族問題、人権の保障についての問題を理解し、考察できる。 ・市場経済における価格変動、寡占市場、市場の失敗について理解できる。 ・株式会社形態、株式会社の意義などについて理解を深めることができる。 ・経済成長率について理解を深めることができる。 ・直接金融と間接金融、日本銀行の役割が理解できる。 ・財政の仕組み、租税の種類、国債について理解できる。
		前期期末考査					
9-11	33	現代社会と人間としてのあり方生き方	・経済活動のあり方と国民福祉 ・国際経済の動向と日本	◎	○	◎	・戦後日本の経済民主化の意義、高度経済成長、バブル経済とその崩壊について理解できる。 ・現在の日本の経済体制について考察できる。 ・中小企業の役割、農業政策の変遷について理解できる。 ・消費者問題について考察し、消費者としての自覚を深めることができる。 ・公害問題の変遷と環境対策について考察できる。 ・労働者としての諸権利や労働法制に対する理解と、雇用のあり方について考察を深める。 ・日本の社会保障制度について理解を深めることができる。 ・自由貿易と保護貿易、国際収支のあり方、紡織の自由化とその体制について理解できる。
		後期中間考査					
12-3	30	共に生きる社会をめざして	・国際経済の動向と日本 ・人間と自然、社会間・世代間の関係	○	◎	◎	・日本国際協力の現状について考察できる。 ・世界の多様性を理解し、世界の人々と共に生きる社会の実現できるための方策について考察できる。
		(後期期末考査)					
合計	105						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		倫理応用	2	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書		詳述公共 (実教出版)				
補助教材		なし				
目 標	科 目	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を理解し、知識として身に付けている。		人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立つて主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を表現できる。		青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努めることができる。諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション		・定期考査 ・ワークシート ・プレゼンテーション	

年間計画

		◎特に重視する		○重視する			
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	青年期の課題と人間の自覚	・青年期の意義 ・青年期の課題	◎	○	○	・人間の特質について多面的・多角的に考察し理解を深める。 ・青年期の意義を理解し、その知識を身に付けている。
6-8	12	人間としての自覚	・ギリシャ思想 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教	◎	○	○	・自然哲学とソフィストについて理解できている。 ・ソクラテスの考え方や生き方について理解できている。 ・プラトンのイデア論とアリストテレスの現実主義とを比較できている。 ・古代ユダヤ教の教えについて理解できている。 ・イエスの説いたアガペーの意義について理解できている。 ・キリスト教の誕生とその後の展開について理解できている。 ・イスラームの成立の背景と偶像崇拝の禁止等の特徴を理解できている。 ・仏教以前のインドの思想について理解できている。 ・ブッダの教えを理解し、その世界観や人間観の特徴を考察できている。 ・儒家思想の展開について理解できている。 ・老荘思想について儒家思想との比較ができている。 ・芸術の持つ意義について理解できている。
		前期期末考査	・中国思想 ・芸術と人生				
9-11	22	日本人としての自覚	・古代日本の思想 ・日本の仏教思想 ・近代日本の思想 ・西洋思想の受容と展開・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人	◎	○	○	・日本の風土と日本人の気質の特徴について理解できている。 ・古代に日本人の宗教観や道徳観について考察できている。 ・日本で受容された仏教の特徴とその展開について理解できている。 ・日本文化と仏教との関係について理解できている。 ・日本で受容された儒教の特徴について理解できている。 ・江戸時代以降の多様な思想展開について考察できている。 ・水戸学など幕末において求められた思想について理解できている。 ・啓蒙思想と自由民権思想を理解し、日本の近代化の課題について考察できている。 ・日本におけるキリスト教の受容のあり方について理解できている。 ・西洋思想の受容と日本の近代化との関わりに関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 ・日本の近代化における課題を多面的・多角的に考察できている。 ・明治以降の近代化における思想の変遷を理解し、その知識を身に付けている。
		後期中間考査					
12-3	20	現代と倫理	・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人 ・人間への新たな問い ・社会参加と幸福	◎	○	○	・ルネサンスの特徴とそれがもたらした世界観や人間観について理解できている。 ・ルターやカルヴァンの思想と宗教改革が与えた影響について理解できている。 ・モリスの思想について理解できている。 ・近代の自然科学及び機械論的自然観の特徴を理解し、それらが与えた影響について考察できている。 ・ペーコンとデカルトの思想について両者を比較しながら理解できている。 ・功利主義思想の特徴とその意義について理解できている。 ・実証主義や社会進化論、プラグマティズムの思想について、理解できている。 ・社会主義思想及びマルクスの人間観・社会観を理解し、現代の貧困や格差などの問題について考察できている。 ・理性中心主義を批判についても、思想を理解し、近代の人間観の課題について考察できている。 ・フランクフルト学派の思想を理解し、近代的な理性の問題点について考察できている。

3年次	選択32			
教科	科目	単位数	学級編成	担当者
数学	数学Ⅲ	4	選択授業	藤島直人
教科書	新編 数学Ⅲ (数研出版)			
補助教材	数学Ⅲ・C基礎問題精講 五訂版			
目標	科目	極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
	評価の方法	・定期テスト、単元テストに加えて、小テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。なお、小テストは単元ごとに定期的の実施する。		・定期テスト、単元テスト、小テストの項目分を加えて、課題の提出状況や日常的な学習活動や課題への取組を加えて3段階A, B, Cで評価する。

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	関数 極限	○分数関数 ○無理関数 ○逆関数と合成関数 ○数列の極限 ○無限等比級数 ○無限級数 ○関数の極限(1) ○関数の極限(2) ○三角関数と極限 ○関数の連続性	○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○	・定義域・値域を理解しグラフがかけられる。 ・極限(∞ , $-\infty$, $+0$, -0 , 右極限, 左極限)の感覚を養い、関数値がどのようなになるか理解できる。 ・はさみうちの原理を理解できる。 ・無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。 ・連続関数の性質を理解できる。
6-8	24	微分法 微分法の応用	○微分係数と導関数 ○導関数の計算 ○いろいろな関数の導関数 ○第n次導関数 ○曲線の方程式と導関数 ○接線の方程式 ○平均値の定理 ○関数の値の変化 ○関数のグラフ ○方程式、不等式への応用 ○速度と加速度 ○近似値	○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・導関数の意味を理解し、基本的な関数の積、商、合成、逆関数を微分できる。 ・三角、指数・対数関数等の微分ができる。 ・高次導関数の定義、表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。 ・微分を利用して、接線を求めたり、関数の増減や凹凸を調べたりできる。 ・グラフをかくことにより、最大値・最小値を求めることや方程式・不等式を解くことができる。 ・媒介変数で表示された関数の微分ができるようになる。速度や加速度と微分の関係を理解できる。 ・導関数を利用して、1次の近似式を考察できる。
9-11	44	積分法とその応用	○不定積分とその基本性質 ○置換積分法と部分積分法 ○いろいろな関数の不定積分 ○定積分のその基本性質 ○置換積分法といろいろな問題 ○面積 ○体積 ○道のり ○曲線の長さ	○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	・三角、指数・対数関数の不定積分を求めることができる。合成関数の積分や置換積分、部分積分が計算できる。 ・さまざまな定積分の値が計算でき、定積分と区分求積法の関係が理解できる。 ・さまざまな関数の面積や体積を求めることができる。 ・曲線の長さや道のりを計算できる。
12-3	40	まとめと復習	○補助教材の演習	○	◎	○	・これまでの知識を生かして、総合的な演習問題を解くことができる。
		(後期期末考査)					
合計	140						

3 年次		選択 3 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学研究 A + B	4	選択授業	船水 裕貫	
教科書		なし				
補助教材		○共通テスト対策 実力養成 基礎徹底演習 数学〔新課程版〕（ラーズ） ○新課程 大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 標準演習PLAN100（数研出版）				
目標	科目	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cの既習事項について、複雑な数学的事象や、さらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、それらの解法をとおして、表現力やコミュニケーション力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cにおける、基礎的な知識を身につけている。 ・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cの基礎的な知識を活用し、基本的な解法を用いて、課題を解決することができる。		・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで身につけた知識を活用し、事象を数学的に推論することができる。 ・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで身につけた知識を活用し、事象を数学的に処理し、解答として表現することができる。		・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで取り上げた数学的なものの見方や考え方に興味をもち、その良さを認識している。 ・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで身につけた知識を活用し、数学的な論拠に基づいて判断しようとしている。 ・課題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価、改善しようとしている。	
評価の方法		・各単元テスト、小テスト、定期考査などで3段階A,B,Cで評価する。		・主に定期テストと単元テストなどで3段階A,B,Cで評価する。		・主に授業中の発表・発言を用いて3段階A,B,Cで評価する。

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	<数と式、集合と命題> <2次関数> <図形と計量> <データの分析> <場合の数と確率> <図形の性質>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	(1) 数と式の知識を生かし、展開や因数分解、不等式について研究する。 (2) 2次関数の知識を生かし、方程式や不等式、判別式、場合分けによる関数の変化の解法について研究する。 (3) 図形と計量の知識を生かし、三角形の成立条件、三角形の解法を用いて、多角形や空間図形の性質について研究する。 (4) データの分析の知識を生かし、2つのデータの相関関係について研究する。 (5) 場合の数と確率では、事象の特性・解法の表現方法を研究する。 (6) 図形の性質では、複雑な図形についての性質について研究する。
6-8	24	<式と証明、複素数と方程式> <図形と方程式> <三角関数・指数関数・対数関数> <微分・積分法> <数列> <統計的な推測> <ベクトル>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	(1) 式の証明をする際の着眼点と方針を明確に述べるができる。複素数の概念を理解し、複素数の範囲で方程式を考察し解を導くことなどができる。 (2) 高次方程式の解法や解と係数の関係について学習する。また、2直線の位置関係や円と直線の位置関係について、図形を代数的に表現し処理する方法を学習する。 (3) 三角関数、指数関数、対数関数など、数学Ⅱで新しく定義された関数を利用して、各種方程式・不等式の解法を学習する。 (4) 微分・積分の知識を生かし、さまざまな関数のグラフの書き方を学習する。解を用いた積分についても学習する。 (5) 漸化式から数列の一般項の求め方を学習する。 (6) 事象を統計的な推測の考えを用いて考察でき、問題解決に活用できる。 (7) ベクトルの基本的な性質を活用し、平面図形・空間図形を考察し、問題解決に活用できる。
		前期期末考査					
9-11	44	<応用問題演習>	○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	(1) 応用問題を解く際の思考の流れを立て、的確に処理できるようにする。 (2) 入試問題から数学的な見方考え方を学び、様々な問題からより深く数学について学ぶことができる。
		後期中間考査					
12-3	40	<入試問題演習>					
合計	140						

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学C（文系）	2	選択授業	船水 裕貴	
教科書		新編 数学C（数研出版）				
補助教材		3 RTRIAL 数学C完成ノート分冊(数研出版)				
目 標	科 目	ベクトル、平面上について理解し、基礎的な知識の習得と技能を習熟し、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身に付ける。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ベクトル、平面上についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
評価の方法	・各単元テスト、小テスト、定期考査などで3段階A, B, Cで評価する。		・主に定期テストと単元テストなどで3段階A, B, Cで評価する。		・主に授業中の発表・発言を用いて3段階A, B, Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	○ベクトル ○ベクトルの演算 ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○位置ベクトル ○ベクトルの図形への応用 ○図形のベクトルによる表示	◎	○	◎	・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・ベクトルの和、差、定数倍を理解し、計算ができる。 ・成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。 ・等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。 ・位置ベクトルについて理解し、ベクトル方程式を求めることができる。 ・3点の一直線上の証明や、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。
6-8	12	空間のベクトル	○空間の点 ○空間のベクトル ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○ベクトルの図形への応用 ○座標空間による図形	◎	○	◎	・空間上の点の表し方を理解し、対称な点の座標を求めることができる。 ・等しい空間ベクトルや逆ベクトル、和や差を考えることができる。 ・ベクトルの成分を定めたり、ベクトルの大きさを求めることができる。 ・3点で定まる角の大きさや、垂直なベクトルを求めることができる。 ・空間における図形を、位置ベクトルで考察できる。 ・球面と平面が交わってできる図形を考察できる。
前期期末考査				○	◎	○	
9-11	22	ベクトルの応用問題	応用問題を中心に演習する	○	◎	◎	・応用問題を解く際の思考の流れを立て、的確に処理できるようにする。
後期中間考査							
12-3	20	ベクトルの入試問題	入試問題を中心に演習する	○	◎	◎	・入試問題から数学的な見方考え方を学び、様々な問題からより深く数学について学ぶことができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学C（理系）	2	選択授業	藤島 直人・吉田 正和	
教科書		新編 数学C （数研出版）				
補助教材		3 RTIAL 数学C完成ノート分冊(数研出版)				
目標	科目	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解し、基礎的な知識の習得と技能を習熟し、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身に付ける。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
評価の方法	・各単元テスト、定期テストに加えて、小テストの項目分を加えて3段階A,B,Cで評価する。		・各単元テスト、定期テストに加えて、小テストの項目分を加えて3段階A,B,Cで評価する。		・各単元テスト、定期テストに加えて、ワーク（3 RTIAL完成ノート）の提出状況や日常的な学習活動、課題への取組等を加えて3段階A,B,Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	○ベクトル ○ベクトルの演算 ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○位置ベクトル ○ベクトルの図形への応用 ○図形のベクトルによる表示	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎ ○ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・ベクトルの和、差、定数倍を理解し、計算ができる。 ・成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。 ・等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。 ・位置ベクトルについて理解し、ベクトル方程式を求めることができる。 ・3点の一直線上の証明や、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。
6-8	12	空間のベクトル	○空間の点 ○空間のベクトル ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○ベクトルの図形への応用 ○座標空間による図形	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ○	○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・空間上の点の表し方を理解し、対称な点の座標を求めることができる。 ・等しい空間ベクトルや逆ベクトル、和や差を考えることができる。 ・ベクトルの成分を定めたり、ベクトルの大きさを求めることができる。 ・3点で定まる角の大きさや、垂直なベクトルを求めることができる。 ・空間における図形を、位置ベクトルで考察できる。 ・球面と平面が交わってできる図形を考察できる。
前期期末考査							
9-11	22	複素数平面 2次曲線	○複素数平面 ○複素数の極形式 ○ド・モアブルの定理 ○複素数と図形 ○放物線 ○楕円 ○双曲線	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ◎ ◎ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ◎	・複素数平面や共役複素数の役割について理解している。 ・複素数を極形式で表すことができる。 ・複素数のn乗根を極形式を用いて考察し、求めることができる。 ・点zと運動する動点zが描く図形について理解し考察できる。 ・放物線の概形を書いたり焦点や準線を求めることができる。 ・楕円の概形、焦点や長軸・短軸を理解している。条件を満たす方程式を求めることができる。 ・双曲線の概形、焦点や長軸・短軸を理解している。条件を満たす双曲線の方程式を求めることができる。
後期中間考査							
12-3	20	媒介変数表示と極座標	○2次曲線の平行移動 ○2次曲線と直線 ○曲線の媒介変数表示 ○極座標と極方程式 ○コンピュータの利用	○ ○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ○ ◎	・曲線 $F(x-p, y-q)=0$ について理解し、その図形について考察できる。 ・2次曲線と直線の共有点の座標や個数を考察できる。 ・既習の曲線を媒介変数と結びつけて考察することができる。 ・直交座標と極座標の関係性を理解し、考察できる。 ・曲線をコンピュータで描き考察することに興味・関心をもつ。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学研究 A	2	選択授業	藤島直人	
教科書		なし				
補助教材		○共通テスト対策 実力養成 基礎徹底演習 数学〔新課程版〕（ラーンズ） ○新課程 大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C 標準演習PLAN100（数研出版）				
目標	科目	数学Ⅰ、数学Aの既習事項について、複雑な数学的事象や、さらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、それらの解法をとおして、表現力やコミュニケーション力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・数学Ⅰ、数学Aにおける、基礎的な知識を身につけている。 ・数学Ⅰ、数学Aの基礎的な知識を活用し、基本的な解法を用いて、課題を解決することができる。		・数学Ⅰ、数学Aで身につけた知識を活用し、事象を数学的に推論することができる。 ・数学Ⅰ、数学Aで身につけた知識を活用し、事象を数学的に処理し、解答として表現することができる。		・数学Ⅰ、数学Aで取り上げた数学的なものの見方や考え方に関心をもち、その良さを認識している。 ・数学Ⅰ、数学Aで身につけた知識を活用し、数学的な論拠に基づいて判断しようとしている。 ・課題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価、改善しようとしている。	
評価の方法	・定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A、B、Cで評価する。		・定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A、B、Cで評価する。		・定期テスト、単元テストの項目分を加えて、課題の提出状況や日常的な学習活動や課題への取組を加えて3段階A、B、Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	<数と式> <2次関数> <図形と計量> <データの分析> <場合の数と確率> <図形の性質>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・展開や因数分解の解法を理解できる。 ・絶対値や平方根について理解し、場合分けを必要とする問題を解くことができる。 ・グラフの平行移動・対称移動の原理を理解できる。 ・方程式・不等式を解くことができるとともに、2次方程式の判別式を用いることができる。 ・正弦定理、余弦定理、三角形の面積の問題を解くことができる。 ・さまざまなデータについて代表値を元にデータの持つ性質や相関関係を考察することができる。 ・事象について順列や組合せ等の基本事項を組み合わせて数学的に考察し、場合の数や確率を求めることができる。
6-8	12	<数と式> <2次関数> <図形と計量> <データの分析> <場合の数と確率> <図形の性質>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・基本事項を理解し、応用問題に適用することができる。 ・展開や因数分解の解法を理解し、さまざまな問題について活用することができる。 ・絶対値や平方根について理解し、場合分けを必要とする問題等に活用することができる。 ・グラフの平行移動・対称移動の原理を理解し、さまざまな問題について活用することができる。 ・方程式・不等式を解くことができるとともに、2次方程式の判別式を用いたさまざまな問題に活用することができる。 ・正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式を用いてさまざまな多角形の問題を解くことができる。 ・さまざまなデータについて代表値を元にデータの持つ性質や相関関係を考察することができる。 ・基本事項を理解し、事象に対して数学的に考察することができる。 ・様々な事象について順列や組合せ等の基本事項を組み合わせて数学的に考察し、場合の数や確率を求めることができる。
前期期末考査							
9-11	22	<数と式> <2次関数> <図形と計量> <データの分析>	○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・展開や因数分解の解法を理解し、応用問題を解くことができる。 ・絶対値や平方根について理解し、場合分けを必要とする問題等の応用問題を解くことができる。 ・グラフの平行移動・対称移動の原理を理解し、応用問題を解くことができる。 ・方程式・不等式を解くことができるとともに、2次方程式の判別式を用いて、応用問題を解くことができる。 ・正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式を用いて、応用問題を解くことができる。 ・さまざまなデータについて代表値を元にデータの持つ性質や相関関係に関する応用問題を解くことができる。 ・様々な事象について順列や組合せ等の基本事項を組み合わせて数学的に考察し、場合の数や確率の応用問題を解くことができる。
後期中間考査							
12-3	20	<場合の数と確率> <図形の性質>					
合計			70				

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学研究 B	2	選択授業	長瀬 肇	
教科書		なし				
補助教材		○共通テスト対策 実力養成 基礎徹底演習 数学〔新課程版〕(ラーンズ) ○新課程 大学入学共通テスト対策/基本と演習 数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 標準演習 PLAN100 (数研出版)				
目標	科目	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳの既習事項について、複雑な数学的事象や、さらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、それらの解法をととして、表現力やコミュニケーション力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳ、数学Ⅴにおける、基礎的な知識を身につけている。 ・数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳ、数学Ⅴの基礎的な知識を活用し、基本的な解法を用いて、課題を解決することができる。		・数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳ、数学Ⅴで身につけた知識を活用し、事象を数学的に推論することができる。 ・数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳ、数学Ⅴで身につけた知識を活用し、事象を数学的に処理し、解答として表現することができる。		・数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳ、数学Ⅴで取り上げた数学的なものの見方や考え方に興味をもち、その良さを認識している。 ・数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ⅳ、数学Ⅴで身につけた知識を活用し、数学的な論理に基づいて判断しようとしている。 ・課題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価、改善しようとしている。	
評価の方法	・単元テスト、定期考査、小テストなどで3段階 A、B、C に評価する。		・単元テスト、定期考査などで3段階 A、B、C に評価する。		・単元テスト、定期考査、課題の提出状況や日常的な学習活動などで3段階 A、B、C に評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	<式と証明、複素数と方程式> <図形と方程式> <三角関数>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・式と証明、複素数と方程式の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。 ・図形と方程式の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。 ・三角関数の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。
6-8	12	<指数関数・対数関数> <微分法・積分法>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・指数関数・対数関数の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。 ・微分法の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。
前期期末考査							
9-11	22	<微分法・積分法> <数列> <統計的な推測> <ベクトル>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・積分法の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。 ・数列の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。 ・統計的な推測の基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。 ・ベクトルの基本事項を理解し、問題演習を通してその活用を研究する。
後期中間考査							
12-3	20	<応用問題演習>	○実践問題の演習、説明	○	◎	○	・実践問題演習を通してその活用を研究する。
合計	70						

3 年次		選択 3 5				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		生物基礎研究	2	選択授業	畠山 薫	
教科書		新編生物基礎（東京書籍）				
補助教材		大学入学共通テスト対策 チェック＆演習 生物基礎（数研出版）				
目標	科目	1 1 年次で学習した「生物基礎」の内容を、全体を俯瞰する形で体系的に捉え直す。 2 各章の関連性の理解を深め、問題演習を通して、総合的に生物基礎を捉える。 ※ 設定科目の趣旨をふまえ、自己の進路決定状況に関わらず他の生徒への配慮を怠らず、最後まで真摯な態度で授業に臨む。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・生命現象について、概念や原理を理解し身につけることができたか。 ・観察・実験の正しい手順を理解しているか。		・生命現象について、資料やデータから内容を読み取り、まとめることができたか。 ・自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができたか。		・生命現象を日常生活と結びつけ、関心を持って学習に臨めたか。 ・日常生活や社会的な課題を学習内容を生かし解決に向けて取り組めたか。	
評価の方法	・要点チェック 5 分20問→フォーム送信		・演習をノートに解く→画像送信（思考過程、解答問題数）		・単元のポイント整理、自身の理解度振り返りをノート下部に書く→画像送信	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	18	生物と遺伝子 生物の体内環境の維持 生物の多様性と生態系	単元ごとの学習内容の復習	◎	◎	○	・教科書を使用しながら演習を行い、1 年次の学習内容の思い出しと論理的思考方法を身につける。
6-8	16	生物と遺伝子 生物の体内環境の維持 生物の多様性と生態系	各単元の関連性を理解した総合演習	○	◎	◎	・教科書を使用せず、自らの知識・思考のみで演習に取り組む。
前期期末評価							
9-11	22	生物と遺伝子 生物の体内環境の維持 生物の多様性と生態系	各単元の関連性を理解した総合演習	○	◎	◎	・教科書を使用せず、自らの知識・思考のみで演習に取り組む。
後期中間評価							
12-1	14	生物と遺伝子 生物の体内環境の維持 生物の多様性と生態系	各単元の関連性を理解した総合演習	○	◎	◎	・教科書を使用せず、自らの知識・思考のみで演習に取り組む。
後期期末評価							

合計 70

3 年次		選択 3 8				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
数学		数学発展		2	選択授業	藤島直人
教科書		なし				
補助教材		大学入試 短期集中ゼミノート 記述試験対策 数学Ⅱ+B+C（実教出版）				
目 標	科 目	数学Ⅱ、数学B、数学Cの既習事項の発展的演習をととして、複雑な数学的事項やさらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、数学的事象を多面的な思考で表現する能力を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において基礎的な知識を身につけ、数学的に推論し処理する技法を身につける。		複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において数学的な見方や考え方を身につける。		複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において考え方に興味を持ち、数学的に判断しようとする態度を身につける。	
評価の方法	・定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・定期テスト、単元テストの項目分を加えて、課題の提出状況や日常的な学習活動や課題への取組を加えて3段階A, B, Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	式と証明、複素数と方程式 (1~10)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・方程式と恒等式を分類し、恒等式の性質を活用できる。 ・剰余の定理、因数定理を用いて、3次方程式の解の個数の分類ができる。
		数列 (39~44)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・等差や等比数列の問題に活用できる。 ・数列の性質を活用し、Σの定義や性質を活用できる。 ・漸化式を様々な見方を通して解くことができる。
		図形と方程式 (11~19)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・点の座標、直線の方程式、円の方程式に関する基本的事項を活用できる。 ・点が領域内を動くときの最大値、最小値を求めることができる。 ・領域を図示して、直線のy切片の最大値、最小値を求めることができる。
6-8	12	三角関数・指数関数 (20~29)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・三角関数の合成を利用したり、対称性の性質を用いたりして、関数の最大値や最小値を求めることができる。公式を使って式変形をし、方程式の解を考察することができる。 ・指数・対数の基本計算ができ、方程式や不等式を解くことができる。 ・常用対数を用いて大きな数の桁数を数えることができる。
		微分・積分 (30~38)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・微分係数の意味や3次関数のグラフに、グラフ上にない点から接線を引く場合の考察ができる。 ・方程式や不等式を解くためにグラフを利用できる。 ・積分区間に文字を含んだ定積分の性質を活用でき、定積分と面積の関係が正しく理解できる。
		前期期末考査					
9-11	22	ベクトル (52~59)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・内積の垂直条件や内積の性質を利用して解くことができる。 ・空間図形におけるベクトルの基本的な性質を活用したり、空間座標において、ベクトルの成分を利用して表すことができる。
		複素数平面・2次曲線 (60~70)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・複素数平面の定義から、複素数の和、差や実数倍が複素数平面上で何を意味するか考察できる。 ・複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ・放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできる。
		確率・統計 (84~89)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・基本事項を理解し、解を得ることができる。 ・全数調査と標本調査、母平均や母標準偏差について理解できる。 ・母平均の推定について理解し、信頼区間を求めることができる。 ・仮説検定の手順を理解し、具体的な事例について考察できる。
12-3	20	後期中間考査					
		まとめと復習	○総合演習	○	◎	○	・実践問題に対して、これまでの知識を活用できる。
合計	70						

3 年次		選択 3 5				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学応用	2	選択授業	吉田 正和	
教科書		なし				
補助教材		公務員 要点整理問題集 ポイントマスター 数的推理・資料解釈 第2版（TAC出版）				
目 標	科 目	これまでの数学で学習した概念や知識をもとに、事象を数学的に考察して活用しようとする態度、および的確かつ迅速に計算処理する能力を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	方程式と不等式、速度、割合、場合の数と確率、整数、図形、図表とグラフにおける基礎的な知識を身につけ、数学的に推論し処理する技法を身につける。		方程式と不等式、速度、割合、場合の数と確率、整数、図形、図表とグラフにおいて、数学的な見方や考え方を身につける。		方程式と不等式、速度、割合、場合の数と確率、整数、図形、図表とグラフにおいて、数学的に判断しようとする力を身につける。	
評価の方法	・定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・定期テスト、単元テストの項目分を加えて、課題の提出状況や日常的な学習活動や課題への取組を加えて3段階A, B, Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	方程式と不等式 速 度	1次方程式 2次方程式 - 不等式 - 速さの3式 - 旅人算 - 流水算・通過算 - 時計算	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	- 問題を読み解き、正しく立式することができる。 - 方程式や不等式の解法について理解し、確実に答えを導くことができる。 - 速さ・時間・距離の関係を理解し、単位にも注意しながら正しく立式することができる。 2つの動点の関係を適切に捉え、答えを導くことができる。
6-8	12	割 合 場合の数と確率	- 比 - 増減・売買 - 濃度 - 仕事算 - 場合の数 - 順列 - 組合せ - 確率	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○	2つの数量の関係について正しく理解・立式し、答えを導くことができる。 - 百分率や割合の表現を適切に用いて計算することで、様々な値を求めることができる。 - 順列や組み合わせの仕組みを理解し、正しく立式することで様々な場合の数を求めることができる。 - 確率の基本性質を理解し、複数のケースにまたがる確率を求めることができる。
前期期末考査							
9-11	22	整数 図形	- 倍数と約数 - 整数のさまざまな問題 - 魔方陣 - 数列・規則性 - 角度 - 三角形・多角形 - 図形の比・相似 - 円と扇形 - 立体図形 - 展開図	○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○	2数の最大公約数や最小公倍数、n進数などを求めることができる。 - 配置された数の規則性に気づき、さまざまな数を求めることができる。 - 平行線や円、多角形の性質を用いてさまざまな角や辺の長さ、面積を求めることができる。 - さまざまな立体の体積や側面積などを求めることができる。
後期中間考査							
12-3	20	図表 グラフ	- 図表形 - グラフ	○ ○	◎ ◎	○ ○	- 統計的な図表から情報を読み取り、確実にいえることを判断することができる。 - 円グラフ、棒グラフなど様々なグラフから情報を読み取り、確実にいえることを判断することができる。
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		実践数学	3	選択授業	長瀬 肇 ・ 後藤 和幸	
教科書		なし				
補助教材		短期集中ゼミ 看護・医療系のための数学Ⅰ・A（実教出版）				
目 標	科 目	数学ⅠAの既習事項について、基本的な概念や定理・性質の理解をより深め、それらの有用性を再確認するとともに、事象を数学的に考察し活用しようとする態度を育てる。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・基礎的・基本的な事項を身に付けている。 ・既習事項を使って、数学的に考察し処理する技能を身に付けている。		・既習事項と関連づけて考察し、適切に分析・判断する力が付いている。 ・疑問点を論理的に考察したり、他と協働して解決策を模索したりし、学びを共有することができる。		・学習内容に興味・関心を持ち、自らの進路目標を見据えて計画的に学習している。 ・既習の学習内容をさらに深く学ぼうと発展的な問題にも意欲的に取り組もうとしている。	
評価の方法	・単元テスト、定期考査、小テストなどで3段階A、B、Cに評価する。		・単元テスト、定期考査などで3段階A、B、Cに評価する。		・単元テスト、定期考査、課題の提出状況や日常的な学習活動などで3段階A、B、Cに評価する。	

年間計画		◎特に重視する ○重視する			○日常的なテーマ ●社会的なテーマ	
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	24	<数と式> <2次関数>	基本問題の確認と演習	◎	◎	◎
6-8	18	<集合と論証> <図形と計量> <図形の性質>	基本問題の確認と演習	◎	◎	◎
前期期末考査						
9-11	33	<データの分析> <場合の数> <確率>	基本問題の確認と演習	◎	◎	◎
後期中間考査						
12-3	30	<数学と人間の活動> <応用問題演習>	基本問題の確認と演習 応用問題の演習と説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○
合計		105				

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学教養	3	選択授業	星野朋己	
教科書		なし				
補助教材		アクセスノート 数学Ⅰ＋A 新課程版（実教出版）				
目標	科目	数学ⅠAの既習事項について、基本的な概念や定理・性質の理解をより深め、それらの有用性を再確認するとともに、事象を数学的に考察し活用しようとする態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・基礎的・基本的な事項を身に付けている。 ・既習事項を使って、数学的に考察し処理する技能を身に付けている。		・既習事項と関連づけて考察し、適切に分析・判断する力が付いている。 ・疑問点を論理的に考察したり、他と協働して解決策を模索したりし、学びを共有することができる。		・学習内容に興味・関心を持ち、自らの進路目標を見据えて計画的に学習している。 ・既習の学習内容を深めるため、身の回りの社会の事象との関連性に関心をもったり、他と協働して作問課題に取り組もうとしている。	
評価の方法	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト		・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・課題学習（授業における活動成果）		・自己評価 ・授業評価 ・課題学習（授業における活動状況）	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4	13	数と式	○整式の計算 ○実数 ○1次不等式	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	◎ ◎ ○	・多項式の基本的な計算ができ、適切な形を選択して展開や因数分解ができる。 ・数を拡張することに興味を持ち、意味を理解できる。その上で、根号を含む式、絶対値記号を含む基本的な式の計算ができる。 ・不等式の性質について理解し、1次不等式を解くことができる。
5	13	場合の数と確率 (前半)	○集合と場合の数 ○順列 ○組合せ	◎ ◎ ○	○ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	・樹形図を書いたり、数え上げができる。 ・順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。 ・組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。
6	10	場合の数と確率 (後半)	○確率の基本的性質 ○いろいろな確率	◎ ○	○ ◎	◎	・確率の意味や基本的な法則について理解を深め、それらを活用して、事象の確率を求めることができる。 ・独立な試行、反復試行、条件付き確率の意味を理解し、基本的な法則に基づいて事象を考察した上で、それらを求めることができる。
7-8	10	2次関数 (前半)	○2次関数のグラフ ○2次関数の最大・最小 ○2次関数の決定	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ○	・2次関数について理解し、そのグラフをかくことができる。 ・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・2次関数の決定について理解し、問題を解くことができる。
前期期末考査							
8-9	10	2次関数 (後半)	○2次関数のグラフと2次方程式 ○2次関数のグラフと2次不等式	○ ○	◎ ◎	◎ ◎	・2次方程式の解を求めることができる。 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係性について理解できる。 ・2次関数のグラフを用いて、2次不等式を解くことができる。
10	8	整数の性質	○約数と倍数 ○ユークリッドの互除法 ○整数の性質の活用	◎ ◎ ○	○ ○ ◎	○ ○ ◎	・最大公約数、最小公倍数について理解できる。 ・ユークリッドの互除法を用いて、最大公約数や1次不定方程式を満たす値を求めることができる。 ・与えられた条件から、満たす整数を絞り込み、解を得ることができる。
11	15	図形と計量	○三角比 ○正弦定理・余弦定理 ○三角形の面積・空間図形への応用	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ○ ◎	・三角比の意味やその基本的な性質について理解できる。 ・正弦定理や余弦定理を理解し、活用できる。 ・三角比や正弦定理、余弦定理などを用いて図形の計量に応用できる。
後期中間考査							
12	14	図形の性質	○三角形と比 ○円の性質 ○空間図形	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ○	・三角形、円および空間図形に関する基本的な性質を理解できる。 ・既習事項を組合せ、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり、説明できる。
1	5	集合と論証	○集合・命題と条件	◎	○	◎	・集合と命題に関する基本的な概念を理解できる。
2	7	データの分析	○データの整理 ○分散と標準偏差・相関係数	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・目的に応じたデータの収集、分析を行い、事象の特徴を説明できる。 ・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味や使い方を理解できる。

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		物理	3	選択	吉田 龍哉	
教科書		高等学校物理（第一学習社）				
補助教材		新課程版アクセスノート物理（第一学習社）				
目 標	科 目	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 （２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （３）物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。		物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって振り返りなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え ・ 実験やグループ活動		・ 考查問題 ・ 授業中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考查問題 ・ 学習活動や課題への取組状況 ・ 授業中での発言や発表 ・ 実験やグループ活動への参加意欲や態度	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	25	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅱ章 波動	4 円運動と単振動・万有引力 1 正弦波 2 音波 3 光	◎	○	◎	・ 単振動をする物体の運動の様子やその物体に働く力などを図や式を使って考えることができる。 ・ 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解する。 ・ 正弦波の伝わり方と式での表し方について理解する。 ・ 音の三要素と音の干渉と回折について理解する。 ・ 音のドップラー効果について考えることができる。 ・ 光の伝わり方について理解する。 ・ 光のスペクトルや光の散乱について理解する。 ・ レンズと球面鏡によってできる像について、図と式を使って考えることができる。 ・ 光の回折と干渉について図と式を使って考えることができる。
6-8	28	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅲ章 電気と磁気	5 気体の性質と分子の運動 1 電場と電位	◎	◎	○	・ 気体分子の運動と圧力の関係について理解する。 ・ 気体分子の圧力と気体分子の熱運動を理解する。 ・ 気体の内部エネルギーについて、熱力学の第1法則に関連付けて理解する。 ・ 気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を考えることができる。 ・ 静電気の種類と性質について理解する。 ・ クーロンの法則と電界について理解する。 ・ 電界と電位の関係を理解する。 ・ コンデンサーの性質を理解する。
前期期末考査							
9-11	32	第Ⅲ章 電気と磁気	2 電流 3 電流と磁場 4 電磁誘導と交流	◎	○	◎	・ オームの法則とジュール熱について理解する。 ・ 直流回路の性質を理解する。 ・ 半導体の性質とその利用について理解する。 ・ 磁気に関するクーロンの法則と、磁界と磁力線について理解する。 ・ 電流が流れる磁界の様子を理解する。 ・ 電流が磁界から受ける力について理解する。 ・ ローレンツ力と磁界中の荷電粒子の運動について考えることができる。 ・ 電磁誘導とその法則について理解する。 ・ ローレンツ力と誘導起電力、電磁誘導とエネルギーの保存について考えることができる。 ・ 自己誘導とコイルの性質について理解する。 ・ 交流について現象や法則を理解する。 ・ 電磁振動と電磁波の性質について理解する。
後期中間考査							
12-3	20	第Ⅳ章 原子	1 電子と光 2 原子と原子核	○	○	◎	・ 電子の電荷と質量について理解する。 ・ 光の粒子性について理解する。 ・ X線の性質について理解する。 ・ 粒子の波動性について理解する。 ・ 原子の構造及びスペクトルの関係について理解する。 ・ 原子核とその崩壊、放射線の関係を理解する。 ・ 原子核の崩壊及び核反応について理解する。 ・ 素粒子の存在と宇宙について理解する。
(後期期末考査)							

合計 105

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		物理	4	選択	吉田龍哉	
教科書		高等学校物理（第一学習社）				
補助教材		新課程版スタディノート物理（第一学習社）				
目標	科目	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。		物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・ 考査問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え ・ 実験やグループ活動		・ 考査問題 ・ 授業中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考査問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 学習活動や課題への取組状況 ・ 授業中での発言や発表 ・ 実験やグループ活動への参加意欲や態度 ・ スタディサプリでの取り組み	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	第Ⅰ章 運動とエネルギー	1 平面運動と放物運動 2 剛体のつりあい 3 運動量の保存 4 円運動と単振動・万有引力	◎	○	◎	・ 平面内を運動する物体の運動の表し方について理解する。 ・ 斜方投射された物体の運動について式を使って考えることができる。 ・ 大きさのある物体のつり合いを考えることができる。 ・ 物体の衝突や分裂における運動量の保存を考えることができる。 ・ 衝突におけるはね返りについて考えることができる。 ・ 円運動をする物体の運動の様子やその物体に働く力などを図や式を使って考えることができる。 ・ 物体に働く慣性力と遠心力について理解する。 ・ 単振動をする物体の運動の様子やその物体に働く力などを図や式を使って考えることができる。 ・ 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解する。
6-8	24	第Ⅱ章 波動	1 波の性質 2 音波 3 正弦波 4 光	◎	○	◎	・ 波の伝わり方とその表し方について理解する。 ・ 波の干渉と回折について理解する。 ・ 音の干渉と回折について理解する。 ・ 音のドップラー効果について考えることができる。 ・ 正弦波の伝わり方と式での表し方について理解する。 ・ 光の伝わり方について理解する。 ・ 光のスペクトルや光の散乱について理解する。 ・ レンズと球面鏡によってできる像について、図と式を使って考えることができる。 ・ 光の回折と干渉について図と式を使って考えることができる。
前期期末考査							
9-11	44	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅲ章 電気と磁気	5 気体の性質と分子の運動 1 電場と電位 2 電流 3 電流と磁場	◎	◎	○	・ 気体分子の運動と圧力の関係について理解する。 ・ 気体分子の圧力と気体分子の熱運動を理解する。 ・ 気体の内部エネルギーについて、熱力学の第1法則に関連付けて理解する。 ・ 気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を考えることができる。 ・ 静電気の種類と性質について理解する。 ・ クーロンの法則と電界について理解する。 ・ 電界と電位の関係を理解する。 ・ コンデンサーの性質を理解する。 ・ オームの法則とジュール熱について理解する。 ・ 直流回路の性質を理解する。 ・ 半導体の性質とその利用について理解する。 ・ 磁力に関するクーロンの法則と、磁界と磁力線について理解する。 ・ 電流が流れる磁界の様子を理解する。 ・ 電流が磁界から受ける力について理解する。 ・ ローレンツ力と磁界中の荷電粒子の運動について考えることができる。
後期中間考査							
12-3	40	第Ⅲ章 電気と磁気 第Ⅳ章 原子	4 電磁誘導と交流 1 電子と光 2 原子と原子核	◎	○	○	・ 電磁誘導とその法則について理解する。 ・ ローレンツ力と誘導起電力、電磁誘導とエネルギーの保存について考えることができる。 ・ 自己誘導とコイルの性質について理解する。 ・ 交流について現象や法則を理解する。 ・ 電気振動と電磁波の性質について理解する。 ・ 電子の電荷と質量について理解する。 ・ 光の粒子性について理解する。 ・ X線の性質について理解する。 ・ 粒子の波動性について理解する。 ・ 原子核とその崩壊、放射線の関係を理解する。 ・ 原子核の崩壊及び核反応について理解する。

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		化学	4	選択授業	岩谷 義久	
教科書		東京書籍 化学 Vol.1 理論編 化学 Vol.2 物質編				
補助教材		啓林館 センサー総合化学3rdEdition				
目標	科目	化学的な事物・現象に関わり, 理科の見方・考え方を備かせ, 見通しをもって観察, 実験を行うことなどを通して, 化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる。	疑問を持ち、課題を見出すことができる。	先を見通して、物事を進めることができる。	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる。	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる。
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けている。		観察, 実験などを行い, 科学的に探究している。		化学的な事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	定期考査 課題		定期考査 レポート		定期考査 課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	1編 物質の状態 2編 化学反応とエネルギー	1章 物質の状態 2章 気体の性質 3章 溶液の性質 4章 固体の構造 1章 化学反応と熱・光	○ ○	◎ ◎	○ ◎	・固体、液体、気体の3つの状態を確認し、粒子のふるまいを考える。 ・蒸気圧と蒸気圧曲線について理解する。 ・ボイルの法則とシャルルの法則からボイル・シャルルの法則が導かれることを理解する。 ・気体の状態方程式を理解する。 ・溶解度と溶解度曲線の表し方について理解する。 ・金属結晶の代表的な構造について考える。 ・ヘスの法則（総熱量保存の法則）について理解する。
6-8	24	3編 化学反応の速さと平衡 4編 無機物質	2章 電池と電気分解 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡 1章 周期表と元素	○ ◎ ○	○ ◎ ○	○ ○ ○	・酸化還元反応を利用してエネルギーを電気として取り出す方法について考える。 ・反応速度vの表し方を理解する。 ・化学平衡の法則の関係を理解する。 ・水の電離平衡について、平衡定数を考え、水のイオン積について確認する。 ・水のイオン積の関係式から、pHを求めることができる。 ・化学基礎での学習を元に、周期表の分類について理解する。
前期期末考査							
9-11	44	2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 金属イオンの分離と確認 5編 有機化合物	2章 非金属材料の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 金属イオンの分離と確認 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素	◎ ○	○ ○	○ ○	・黄ガスの性質や主な用途について知る。 ・ハーバー・ボッシュ法の歴史に関して理解し、現代における課題について理解する。 ・酸化鉄、鉄（Ⅱ）化合物、鉄（Ⅲ）化合物について理解する。 ・複数の金属イオンの混合溶液から各金属イオンを分離し、その種類を確認することを系統立てて行う方法について理解する。 ・有機化合物のさまざまな表し方を理解する。 ・化石燃料の特徴について理解する。
後期中間考査							
12-3	40	6編 高分子化合物 7編 化学が果たす役割	3章 アルコールと関連化合物 4章 芳香族化合物 1章 高分子化合物とは何か 2章 天然高分子化合物 3章 合成高分子化合物 1章 化学的性質の利用と工業的製法 2章 未来を創る化学	○ ◎	◎ ◎	○ ○	・アルコールの構造とさまざまな分類方法について理解する。 ・脂肪と脂肪油の違いを理解する。 ・セッケンの性質について、理解する。 ・ベンゼンの性質について、理解する。 ・高分子化合物とは何かを理解し、その分類について知る。 ・ナイロン合成の歴史について知る。 ・高分子化学の歴史について知る。 ・合成樹脂（プラスチック）とは何かを確認する。 ・これまで学習してきた内容を踏まえて、これまでをまとめ、未来に向けてどうあるべきかを考える。
(後期期末考査)							
合計	140						

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		生物	3	選択授業	加藤 友秋・松浦 孝志	
教科書		生物（数研出版）				
補助教材		リードLightノート生物（数研出版）				
目 標	科 目	・DNAの構造と遺伝子発現の仕組みについて学習し、バイオテクノロジーへの利用についても理解する。 ・動物・植物の組織と調節の仕組みについて学習する。 ・生態系を構成する生物群集に仕組みについて学習する。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	生物体の構造や仕組み、代謝・遺伝について理解する。観察実験において、実験装置や試薬を正しく使用することができる。		生命現象や仕組みについて、資料や実験結果から正しく読みとることができる。自分の読み取ったことをわかり易くまとめ、伝えることができる。		日常生活との関係性を理解し、生命の仕組みを積極的に探求しようとする。実験観察の目的を理解し、実験装置や実験に使う試薬を適切に選び、主体的に進めようとする。	
評価の方法		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物 ・日常的な学習活動や実験観察への取組		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生	第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	○	◎	◎	・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・遺伝子の発現について、転写レベルの調節を中心に学習する。 ・染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 ・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程・形態形成のしくみを理解する。 ・遺伝子を扱うバイオテクノロジーについて学習し、その原理と応用例を理解する。
6-8	18	第5章 動物の反応と行動	第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動	○	◎	◎	・ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。 ・受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を理解する。 ・刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に、効果器に関しては筋肉を中心に学習し理解する。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと理解する。
前期期末考査							
9-11	33	第6章 植物の環境応答	第1節 植物の生活とホルモン 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答 第6節 配偶子形成と受精	◎	◎	○	・植物は成長を調節するなどして環境に反応していることを理解する。 ・環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。
後期中間考査							
12-3	30	第7章 生物群集と生態系	第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 系系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活	○	◎	◎	・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を理解する。 ・生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 ・生態系における物質生産について理解する。 ・いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について理解する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識する。
(後期期末考査)							
合計	105						

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		生物	4	選択授業	加藤 友秋	
教科書		生物（数研出版）				
補助教材		リードLightノート生物（数研出版）				
目標	科目	・細胞を作っているタンパク質の構造や遺伝子、またそれによって引き起こされる光合成や呼吸といった生命現象の概念を把握する。 ・DNAの構造と遺伝子発現の仕組みについて学習し、バイオテクノロジーへの利用についても理解する。 ・動物・植物の組織と調節の仕組みについて学習する。 ・生態系を構成する生物群集に仕組みについて学習する。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
	能	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	生物体の構造や仕組み、代謝・遺伝について理解する。観察実験において、実験装置や試薬を正しく使用することができる。		生命現象や仕組みについて、資料や実験結果から正しく読みとることができる。自分の読み取ったことをわかり易くまとめ、伝えることができる。		日常生活との関係性を理解し、生命の仕組みを積極的に探求しようとする。実験観察の目的を理解し、実験装置や実験に使う試薬を適切に選び、主体的に進めようとする。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・提出物 ・日常的な学習活動や実験観察への取組	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	第1編 生物の進化 第1章 生物の進化 第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子	第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせ 第4節 進化のしくみ 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化 第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	◎	◎	○	・生命の誕生や生物の進化について、遺伝子の構造と変異に基づいて理解する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても理解する。 ・生物が進化の道筋をたどることによって系統に分類できることを理解する。人類の系統と進化についても理解する。 ・細胞を構成する物質について理解する。 ・タンパク質の構造を1次構造から4次構造まで理解する。 ・タンパク質が、酵素として機能する上での立体構造の重要性を理解する。 ・細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて理解する。 ・生体膜や細胞骨格については、その構造と構成タンパク質について理解する。 ・生体膜上で物質輸送や情報伝達に関わるタンパク質の、はたらきと仕組みについて理解する。
6-8	24	第3章 代謝 第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生	第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	◎	◎	○	・「生物基礎」で概要を学習した呼吸・光合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 ・光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解する。 ・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・遺伝子の発現について、転写レベルの調節を中心に学習する。 ・染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 ・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程・形態形成のしくみを理解する。 ・遺伝子を扱うバイオテクノロジーについて学習し、その原理と応用例を理解する。
前期期末考査							
9-11	44	第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答	第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動 第1節 植物の生活とホルモン 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答 第6節 配偶子形成と受精	○	◎	◎	・ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。 ・受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を理解する。 ・刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に、効果器に関しては筋肉を中心に学習し理解する。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと理解する。 ・植物は成長を調節するなどして環境に反応していることを理解する。 ・環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。
後期中間考査							
12-3	40	第7章 生物群集と生態系	第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 系系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活	○	◎	◎	・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を理解する。 ・生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 ・生態系における物質生産について理解する。 ・いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について理解する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識する。
(後期期末考査)							
合計	140						

3 年次		選択 3 4				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		地学基礎	2	選択授業	高橋 賢司	
教科書		地学基礎（東京書籍）				
補助教材		ニューサポート 地学基礎（東京書籍）				
目標	科目	・私たちの生活の場である自然環境に関して、物理的な側面や化学的な側面、そして生物学的な側面から捉え、多角的に考え、表現することができる。 ・日本列島では、自然災害が比較的に多いことから、地震、津波、火山、集中豪雨についての理解を深め、自然災害に対して正しく対処することができるよう、自ら学んだことを実生活に還元することができる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	地学は、私たちの生活の場である自然環境に関する科目であり、物理的側面、化学的側面、生物学的側面を含んでいて、様々な要素が組み合わさることで、自然環境ができていて理解することができる。		地学を通して学んだ学習内容や知識を、繋がりを持たせて（関連付けて）捉え、地学の知識や内容を活用することができる。		自然災害から、正しく身を守るために、防災の知識を持ち、地学を通して学んだことを活かすことができる。	
評価の方法		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業での発問に対する答え		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業中での発言や発表 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	①宇宙の構造と進化 ②太陽と惑星	・ビッグバンと宇宙の誕生 ・天体の誕生 ・銀河と天の川銀河 ・銀河の集団と宇宙の大規模構造 ・太陽系の誕生 ・太陽系天体の特徴 ・太陽	◎	◎	○	・ビッグバンと宇宙の誕生について、理解を深める。 ・天体の誕生、恒星としての太陽の進化、銀河と天の川銀河、銀河集団と宇宙の大規模構造について正しく理解している。 ・「宇宙の晴れ上がり」の後、ガスが重力（万有引力）によって集まり恒星が誕生した流れを説明することができる。 ・惑星が形成されるとき、原始太陽からの距離によって、性質が異なる2種類の惑星ができ、地球型惑星と木星型惑星の違いについて説明することができる。 ・なぜ地球型惑星と木星型惑星では、惑星の特徴が異なるのか、興味関心を持って、取り組むことができる。
		③地層や岩石の観察 ④生命の変遷	・地層の形成 ・地質構造 ・地層と古環境 ・地球史の最初期 ・先カンブリア時代 ・古生代 ・中生代 ・新生代	○	◎	○	・地層累重の法則、示準化石、示相化石、地層の対比等について説明することができる。 ・放射性元素による年代測定など半減期の見方を理解し、どのような場面で利用されているのか興味関心を持ち、学習活動にあたることことができる。 ・無脊椎動物が爆発的に出現し多様化したカンブリア爆発について説明することができる。ペルム紀末の大量絶滅を経て、中生代には被子植物が登場し、恐竜やアンモナイトが繁栄したことを説明することができる。
前期期末考查							
9-11	22	⑤大地とその動き ⑥地震と火山	・地球の形と大きさ ・地球の構造 ・地球内部の動き ・プレートの境界 ・地震のメカニズム ・海溝の地震、活断層の地震 ・火山活動の多様性 ・火成岩の観察	○	◎	◎	・地球が球体である事実を、様々な視点や根拠から説明することができる。 ・プレートテクトニクスや、ブルームテクトニクスについての理解を深め、説明することができる。 ・3種類あるプレートの境界について理解を深め、その違いについて説明することができる。 ・地球の自転の影響も考慮した地球の形が、赤道部分が長い回転楕円体であることを説明することができる。 ・身近な現象の中にある「対流」を理解し、マンツルの動きと関連付けすることができる。 ・地震のメカニズムや火山活動の多様性について理解を深める。
		後期中間考查					
12-3	20	⑦大気と海洋 ⑧日本の自然の恵みと防災 ⑨地球環境の考え方	・地球の大気 ・地球の熱収支 ・大気の大循環 ・海水とその運動 ・日本の自然環境の特徴 ・自然の恵み ・地震による災害と防災 ・火山による災害と防災 ・気象災害と防災	◎	○	○	・大気の大気構造は、温度の高度変化に伴い定まっていることを理解し、各層の役割等も含めて説明することができる。 ・海水温度と水深の関係についても理解し、説明することができる。トリチェリの実験について説明することができる。 ・「炭素循環」についての理解を深め、説明することができる。 ・地球環境問題に対応するためこれからの社会には持続可能な発展が求められていることを理解し、できることを考え行動することができる。 ・日本には狭い国土の中に多様な自然環境を持っており、さまざまな恵を与えてくれる。例えば、地熱発電等について自ら調べ、エネルギー問題等の発展的な内容について調べ、自分の意見を持つことができる。
		(後期期末考查)					

合計 70

3 年次	選択 3 4				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
理科	理科教養	2	選択授業	松浦孝志	
教科書					
補助教材	科学と人間生活 補充テキスト&問題集 化学編・物理編（数研出版）				
目標	科目	自然の事物・現象や科学技術について興味・関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするともに、科学的態度を身に付けている。 ・観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
	・授業態度 ・授業での気づき、発問 ・ワークシート等の提出 ・ワークシートの記述内容 準備や操作の状況 ・考査	・授業態度 ・グループ討論、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・考査		・発問に対する解答 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト ・考査	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	物質の構成と化学結合	・物質の構成 ・物質の構成粒子	◎	○	◎	・物質が原子で構成されており、原子は陽子・電子・中性子からできていることがわかる。 ・価電子の数が原子やイオンの性質と関係していることがわかる。
6-8	12	物質の構成と化学結合	・粒子の結合	◎	◎	◎	・物質を構成している粒子の結合とその物質の性質を関連付けて考えることができる。
前期期末考査							
9-11	22	物質の変化	・物質と化学反応式	◎	◎	◎	・粒子の重さは12C=12を基準とした相対値で表すことがわかる。 ・物質の量（個数、質量、体積等）をmolと関連づけることができる。 ・化学反応による量的関係について理解し説明ができる。
後期中間考査							
12-3	20	運動とエネルギー	・運動の表し方 ・運動の法則	◎	◎	◎	・様々な現象における運動について、理解し説明ができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次	選択 3 4				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
理科	物理基礎研究	2	選択授業	吉田 龍哉	
教科書	なし				
補助教材	ベストフィット物理基礎 新課程（実教出版）				
目標	科目	物理基礎で学んだ物理の基本的な概念や原理・法則について理解を深め、観察や実験などをとおして、理科の見方・考え方を働かせ、日常の現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	- 学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解できたか。 - 正しい手順で観察・実験を行うことができたか。		- 課題に対して、科学的・論理的に思考し、判断しているか。 - 課題について自らの考えをわかりやすく伝えることができたか。		- 意欲的に課題を追求することができたか。 - 自ら考え、見通しを持って主体的に観察・実験に取り組んだか。
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え		・ 考查問題 ・ 授業中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考查問題 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか。 ・ ワークシートなど提出物

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	I 物体の運動	1 運動の表し方 2 力と運動の法則	◎	◎	○	・ 具体的な運動について、観察をととして速度・加速度の関連性の理解を深める。 ・ 落体の運動の特徴および物体にはたらく力と運動の関係について理解を深める。 ・ 物体にはたらく力の具体的な例を実験等により確かめる。 ・ 力のつり合いを図と式を使って考える。 ・ 力と速度・加速度の関連性について、具体的な運動をととして理解を深める。
6-8	12	II エネルギー	1 仕事と力学的エネルギー 2 熱と温度・仕事	○	◎	○	・ 物理における仕事について理解を深める。 ・ 仕事とエネルギーの関連性を具体的な現象をととして理解を深める。 ・ 熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・ 熱とその量及びその移動について式を使って考える。 ・ 熱とエネルギーの関連性を実験をととして理解を深める。
前期期末考查							
9-11	22	III 波	1 波の性質 2 音波	○	◎	◎	・ 波の性質や波が伝わる際の媒質の変化について、実験・観察をととして理解を深める。 ・ 音波の具体的な現象を、実験・観察をととして理解を深める。 ・ 気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質について理解を深める。
後期中間考查							
12-3	20	IV 電気	1 電荷・電流・磁場	◎	○	○	・ 静電気と電子について理解を深める。 ・ 電流、電圧、電気抵抗の相互の関係について理解を深める。 ・ 電流の種類と電磁波について理解を深める。 ・ 様々なエネルギー資源が、使いやすい形態に変換されるしくみについて理解を深める。
(後期期末考查)							

合計 70

3 年次		選択 3 4				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		化学基礎研究	2	選択授業	岩谷 義久	
教科書		東京書籍 新編化学基礎				
補助教材		数研出版 新課程大学入学共通テスト対策チェック&演習化学基礎				
目標	科目	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる。	疑問を持ち、課題を見出すことができる。	先を見通して、物事を進めることができる。	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる。	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる。
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	定期考査 課題		定期考査 レポート		定期考査 課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	1 編 1 章 2 章 2 編 1 章	化学とは何か 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 電子配置と周期表	◎ ◎	◎ ◎	◎	・身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づき、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 ・純物質と混合物の性質を理解し、混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。 ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の取り方を知る。
6-8	12	2 編 2 章	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 化学結合と物質の分類	◎	◎		・イオン結合の形成について理解する。 ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。
前期期末考査							
9-11	22	3 編 1 章 2 章	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応の表し方 化学反応の表す量的関係 酸と塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩の生成 中和滴定	◎ ◎	◎	◎	・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・物質質量とその単位 mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。 ・酸と塩基の性質について理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。
後期中間考査							
12-3	20	3 編 3 章 終章	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用 化学が拓く世界	◎	◎ ◎	◎	・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により酸化と還元が確認できることを理解する。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 ・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 5				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
理科		化学基礎研究		2	選択授業	松浦 孝志
教科書		東京書籍 新編化学基礎				
補助教材		数研出版 新課程大学入学共通テスト対策チェック＆演習化学基礎				
目標	科目	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる。	疑問を持ち、課題を見出すことができる。	先を見通して、物事を進めることができる。	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる。	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる。
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。			物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考査 課題			定期考査 レポート		定期考査 課題

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達目標
4-5	16	1 編 1 章 2 章 2 編 1 章	化学とは何か 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 電子配置と周期表	◎ ◎	◎ ◎	◎	・身のまわりの製品には、その物質の性質がうまく利用されていることに気づき、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 ・純物質と混合物の性質を理解し、混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。 ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。
6-8	12	2 編 2 章	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 化学結合と物質の分類	◎	◎		・イオン結合の形成について理解する。 ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。
前期期末考査							
9-11	22	3 編 1 章 2 章	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応の表し方 化学反応の表す量的関係 酸と塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩の生成 中和滴定	◎ ◎	◎	◎	・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・物質質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。 ・酸と塩基の性質について理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。
後期中間考査							
12-3	20	3 編 3 章 終章	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用 化学が拓く世界	◎	◎ ◎	◎	・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により酸化と還元が確認できることを理解する。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 ・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		実践化学	2	選択授業	加藤 友秋	
教科書		なし				
補助教材		レッツトライノート化学基礎Vol. 2物質と化学反応式, レッツトライノート化学Vol. 4有機化合物, 5高分子化合物（東京書籍）				
目標	科目	・身の回りの物質と物質の変化に関する化学的な概念、原理、法則を理解すること。 ・有機物や高分子化合物をよく知ることにより、医療の現場で的確に判断を下すことができるようになること。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		化学の特徴について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。		化学の特徴に関する事象・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・日常的な学習活動や課題への取組 ・グループ学習等		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	物質量	1. 原子量 2. 分子量・式量 3. 物質量 4. 濃度	◎	○	◎	・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・物質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。
6-8	12	化学反応式	1. 化学反応式 2. 化学反応式とその量的関係 3. 化学の基本法則	◎	○	◎	・物質を化学式で表し、物質量を元に質量や体積や粒子の数を求めたり、化学反応を反応式で表すことができるようになる。また、化学反応の量的関係を計算したり、水溶液の濃度を求めることができるようになる。
前期期末考査							
9-11	22	有機化合物	1. 有機化合物の特徴と構造 2. 炭化水素 3. アルコールと関連化合物 4. 芳香族化合物	○	◎	◎	・有機化合物の特徴と構造について、炭素・水素・酸素・窒素・硫黄・リンなどの原子を中心として学ぶ。 ・炭化水素の基本的構造と分類、それぞれの性質について学ぶ。 ・アルコール・アルデヒド・カルボン酸・アミン・エーテル・ベンゼン環など、炭化水素関連物質について学ぶ。
後期中間考査							
12-3	20	高分子化合物	1. 天然高分子化合物 2. 合成高分子化合物 3. 高分子化合物と人間生活	○	◎	◎	・糖・脂肪・タンパク質・核酸など、生体に含まれる有機高分子化合物について、学ぶ。 ・プラスチックなどの合成高分子化合物の種類と合成反応について学ぶ。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	体育	3	2 クラス 3 展開		対馬・北辻・稲村・齋藤・久保	
教科書	大修館 現代高等保健体育					
補助教材	現代高等保健体育ノート					
目標	科目	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を思考・判断できる。 ・自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続する計画を工夫し、他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。	
評価の方法	・授業への取り組み（観察） ・ルール、審判法の理解 ・練習方法の計画性 ・基本的な個人技能 ・周囲への配慮		・授業への取り組み（観察） ・自己の課題設定 ・練習方法の工夫		・授業への取り組み（観察） ・ルールの遵守 ・安全への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	体づくり運動 選択Ⅰ 陸上競技 器械運動 ダンス	体ほぐし運動 体力を高める運動 スポーツテスト 陸上競技（短距離走） 現代的なリズムのダンス（仲間と動きを合わせリズムに乗って踊るダンス）	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	◎ ○ ○	・体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて理解する。 ・自己の能力に適した種目を選び、段階的かつ継続的に練習をすすめ、自己目標を設定し記録や演技力の向上を目指す。（陸上競技、器械運動） ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。また、自主的に取り組むとともに助け合い教え合い、話し合いに貢献したり、一人ひとりの違いに応じた表現や役割を大切にする。（現代的なリズムのダンス）
6-9	36	選択Ⅱ	バレーボール サッカー ソフトボール	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。
10-11	24	選択Ⅲ	バレーボール バスケットボール 卓球	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ルールを遵守し、相手を尊重しながら、協力して安全にゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。
12-3	21	選択Ⅱ 体育理論	バレーボール バスケットボール 卓球 豊かなスポーツライフの設計	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ルールを遵守し、相手を尊重しながら、協力して安全にゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。 ・スポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などに応じて変化するものであることを理解できるようにする。
合計	105						

3 年次		選択 3 7				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	生涯体育探究	2			齋藤・対馬	
教科書	大修館 現代高等保健体育					
補助教材	現代高等保健体育ノート					
目標	科目	それぞれの体力、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、生涯にわたってスポーツに親しむことができる態度を育成する。既存のニュースポーツから、さらに発展させたオリジナルのニュースポーツを開発しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動技術の仕組み、体力の高め方、スポーツの文化について理解しているか。自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めている。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。		生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
評価の方法	授業への取り組み（観察） ルールの遵守 基本的な個人技能		授業への取り組み（観察） 自己の課題設定 練習方法の工夫		授業への取り組み（観察） 練習方法の計画性 周囲への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	12	オリエンテーション 体づくり運動	体ほぐし運動 体力を高める運動 ジョギング	○	◎	◎	・ライフステージに応じた体力トレーニングの方法を理解して実践している。 ・グループで協力しながら、仲間づくりやマナーを学ぶことができる。 ・仲間と協力して課題を解決することができる。
6-9	24	レクリエーション スポーツⅠ	キックベース タグラグビー/タッチフット テニス/パークゴルフ アルティメット (雨天時バレー、卓球)	○	◎	◎	・運動技能の構造や運動の学び方について理解することができる。 ・屋外における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
10-11	18	レクリエーション スポーツⅡ	テニソン インディアカ ドッチビー ミニバレー	○	◎	◎	・屋内における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
12-3	16	レクリエーション スポーツⅢ 家庭学習	ニュースポーツ	○	◎	◎	・日本で行われているニュースポーツや、世界各国で行われているニュースポーツを体験するとともに、オリジナルのニュースポーツを開発しようとする態度を身に付けることができる。
合計	70						

3 年次		選択 3 8			
教科		科目	単位数	学級編成	担当者
芸術		音楽Ⅲ	2	選択授業	田中 俊幸
教科書		Joy of Music			
補助教材		基礎から学ぶ高校音楽 Music Note			
目標	科目	・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音楽環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や音に気を感じながら、どのように表現するかについて理解する。		・イメージを持った、創造的工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、それを表現している。		・音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に表現しようと工夫して取り組もうとしている。
評価の方法	・演奏（理解） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験		・演奏（技術） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験・鑑賞		・演奏（態度） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞

年間計画

◎特に重視する。○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・理論 ・歌唱	・オリエンテーション ・ソルフェージュ ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	○	◎	・発声の基本技能を身に付け積極的に歌唱活動を行う。 ・音楽の諸要素を知覚し、創造的に表現する。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダ ・器楽合奏 ・日本の歌曲（歌唱） ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・他者との調和を意識したり、合奏の特徴を生かしながら、イメージを持って表現を創意工夫する。
前期期末考査							
9-11	22	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダー（アンサンブル） ・ギター（合奏） ・ヴォイスアンサンブル ・子どもの歌（歌唱） ・実技試験（ギター）	◎	○	○	・自己の内容イメージを表現するための具体的な技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。 ・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。
後期中間考査							
12-3	20	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞 ・創作 ・発表	・ギター（弾き語り） ・日本のポップス（歌唱） ・合唱 ・器楽合奏 ・発表	○	○	◎	・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。 ・それぞれ技術に合ったアンサンブル譜を使用し、グループ活動を通して積極的に音楽活動に参加する。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		演奏に親しむ	2	選択授業	田中 俊幸	
教科書		なし				
補助教材		なし				
目標	科目	演奏活動を通じて、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、音楽の諸能力を伸ばし、豊かな心情を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・演奏技術の知識・理解を深め、生涯にわたって音楽を愛好する心情を深める。・進路実現を目標に、演奏技術の習得を目指す。		・自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。		・様々なジャンルの音楽に触れ、多様な音楽について探究し、演奏や鑑賞の態度を育成する。	
評価の方法	・演奏・ワークシート・学習活動への参加状況や態度・実技試験		・演奏・ワークシート・学習活動への参加状況や態度・実技試験		・発表・ワークシート・学習活動への参加状況や態度・鑑賞	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・導入 ・演奏 1	・楽譜の読み方 ・発声練習 ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	○	◎	・基本的な楽譜の仕組みについて確認する。 ・発声の基本技能を身に付け、積極的に歌唱活動を行う。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・演奏 2	・ピアノ演奏 ・実技試験（ピアノ）	◎	◎	○	・鍵盤の仕組みについて理解し、基本的な演奏能力を身につける。
前期期末考査							
9-11	22	・演奏 3	・ギター合奏 ・ギター弾き語り ・実技試験（ギター）	◎	◎	○	・ギターの基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。 ・曲にふさわしい奏法や表現能力を身につける。
後期中間考査							
12-3	20	・まとめ	・発表	○	○	◎	・簡単な創作をグループで行い、創作や発表の基本を学ぶ。 ・演奏や鑑賞について、主体的に取り組む態度を育成する。
(後期期末考査)							
合計	70						

		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
		書道Ⅲ	2	選択授業	天満谷 貴之	
教科書		なし				
補助教材		新訂 ペン習字教本（教育出版）				
目標	科目	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	(1)書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めることができる。 (2)書の伝統や文化に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けることができる。		書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、書の美を味わい深く捉えたりすることができる。		主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、生活や社会を創造していく態度を養うことができる。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・グループワーク ・作品 ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・ワークシート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション 漢字の書 1	特異な古典を学ぶ (磨崖の書・古縁)	◎	○	○	<知識・技能> ○中国の歴史的背景を踏まえ、様々な各地にある古典を考察し、その文字の魅力を感じながら、表現領域を広げることができる。
6-8	12	漢字の書 2	楷書と行書を比較 日本の書を学ぶ	◎ ○	○ ◎		<知識・技能> ○楷書と行書の特徴を比較しながら、その特徴を活かし臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○ワークシートを活用しながら、日本における三筆・三蹟を学ぶことで、日本の伝統文化である書の変遷、書法を理解することができる。
前期期末考査							
9-11	22	仮名の書	書の伝統文化を学ぶ ・関戸本古今和歌集 ・本阿弥切本古今和歌集 ・仮名の構成を学ぶ ・継色紙 ・升色紙 ・寸松庵色紙	○	◎	◎	<思考・判断・表現> ○三色紙（散らし書き）をそれぞれ比較・考察しながら構成の美を感じ、普遍的な美の境地を探究する。 <主体的に学習に取り組む態度> ○日本の文字文化を支える「古筆」を学ぶことで、その美しさやよさを感じ、追体験しながら当時の美意識を探究する。
後期中間考査							
12-3	20	漢字仮名交じりの書	自らの言葉で、表現する 用具・用材の妙に触れる 生活空間に生きる書を創作する	○ ◎	 ◎ ◎	◎ ○ ◎	<知識・技能> ○用具・用材を選定し、自らの意図に応じた効果的な表現ができる。 <思考・判断・表現> ○言葉の持つ意味を考え、それに調和するための要素を効果的に工夫しながら表現することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ○書がもたらす効用を考え、生活空間に生きる書を探究する。 ○半切サイズを中心に、書を創作し互いに鑑賞し合いながら、感性の美を鑑賞することができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

選択 3 6						
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
	書に親しむ	2	選択授業		天満谷 貴之	
教科書	なし					
補助教材	新訂 ペン習字教本（教育出版）					
目 標	科 目	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・ 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。		・ 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。		・ 書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
評価の方法	・ 作品 ・ 自己評価シート ・ ワークシート		・ グループワーク ・ 作品 ・ ワークシート		・ 作品 ・ グループワーク ・ ワークシート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション (硬筆) 筆を作ろうスポンジ 篆刻	日常にある書を楽しむ 用具用材による変化を学ぶ 篆刻の基本を活かし、スポンジの素材で刻してみよう		○	◎ ◎ ◎	<主体的に学習に取り組む態度> ○書の伝統文化を意識し、日常生活との関連や、書の効用について考察し、グループワークを通して学び合うことができる。 ○割りばしを活用し、筆の代用として文字を書くことで、毛筆との相違や効果を検証することができる。 ○カッターを活用し、石を切る感覚を得ながら、刃物の鋭角さや立体性などを感じることができる。
6-8	12	古代文字(甲骨)を刻す	毛筆で、甲骨文字を表現する 彩玉ボードで、甲骨文字を刻してみよう。	◎	○	◎	<知識・技能> ○用具用材を考えながら、筆で書く際の要素を探究し、刃物と筆との相違や共通点を探ることができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ○甲骨文字を刻す際の、繊細な技術や緻密さを疑似体験し、先人達の数値感覚をしながら、刻すことができる。
前期期末考査							
9-11	22	墨(淡墨)を学ぶ 半紙と宣紙との違いを学ぶ 漢字仮名交じりの書と表具	磨墨で、墨の色を見よう 紙質による違いを味わおう	◎ ○	○ ◎	○	<知識・技能> ○墨の濃度によって、滲みや色合い等の変化を感じながら、文字の表情や風趣を感じとることができる。 <思考・判断・表現> ○ワークシートを活用しながら、様々な紙の状態を記録し、紙本来の持つ特徴を分析し、紙と墨が調和するタイミングや、奥ゆかしい風合いについて、その原理や工程を理解することができる。 ○表具の技法を学び、日本の伝統文化に対する美意識を感じることができる。
後期中間考査							
12-3	20	生活の書	毛筆・硬筆による小書き ・お祝い ・熨斗袋 ・お礼(挨拶) 手紙を書く	◎ ◎	○	◎ ◎	<知識・技能> ○基本的な形式を理解し、日本の伝統と文化についての知識を高める。 <思考・判断・表現> ○言葉の深さを理解し、それに調和する文字を丁寧に表現することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ○書や文字が社会の中でどのように生きているのかを考えたり、その役割を見出すなど、書道がもたらす効用を考えることができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
芸術		色彩に親しむ	2	選択授業		安田 祐子
教科書						
補助教材						
目標	科目	美術活動を通じて、美術を愛好する心情・感性理解を深める。また自己の表現のために、必要な技術を身につけ表現の幅を広げる。作品鑑賞の能力を伸ばす。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	表現の方法・違いを正確に理解し、自身の好むより高度な表現のために必要な技能を習得する。		自身が求める創造的な表現がなされているかを考察する。感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練る。		幅広い表現方法と鑑賞活動に関心を持ち、主体的に生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などに理解を深めようとしている。模倣や繰り返しを避け、これまでの学習をもとに自由で新たな表現方法に挑戦している。	
評価の方法	・練習課題 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・学習活動への参加状況や態度		・エスキース、アイディアスケッチ等 ・作品 ・ 鑑賞レポート ・学習活動への参加状況や態度	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・導入 ・平面構成	・オリエンテーション ・対比するテーマを色彩と構成により表現する	○	◎	◎	○色彩について基本的な知識の理解を深める。 ○画材、用具についての特徴を確認し深める。 ○対比するテーマについて多くの構成パターンを検討する。 ○自由で大胆な構成を行う。
6-8	12	・平面構成 ・油絵	・着彩 ・鑑賞 ・木炭によるデッサン（風景画）	◎	○	◎	○色彩と構成の理解を深め、完成作品の印象をイメージする。 ○画材の特徴を生かし、魅力的に着彩できる力を身につける。 ○用具の正しい使い方を身につける。 ○構図や遠近法を工夫することで奥行や空間を正確に再現する。 ●天気や光、雲や霧等の効果を生かし図館特有の風景を演出する。
(前期期末考査)							
9-11	22	・油絵 ・コラグラフ	・油絵具による着彩 ・相互鑑賞 ・抽象的な表現について	○	◎	◎	○混色技法について理解を深め、思い通りの色を作り着彩する。 ○絵の具の層や多様なマチエールによる空間の表現を学ぶ。 ○日々変化していく風景を観察し、表現する力を深める。 ●身のまわりにある美しさ、面白さなどの気になるものを組み合わせて社会にあるものを新しい視点で見つめる。
(後期中間考査)							
12-3	20	・コラグラフ	・下描きと構成 ・刷り ・メッセージカード作成	○	○	◎	○抽象的な表現について素材の特徴と構成について深める。 ○色やかたちに変化を持たせ、画面にリズムを作りだす。 ●表現の先にある鑑賞者を意識する。 ●コラグラフにより制作したカードに文章を添えて発送する。
(後期期末考査)							

合計 70

3年次		必修				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		英語コミュニケーションⅢ	4	学級単位	茨目 哲也・佐藤 拓道・相馬 隆行	
教科書		MY WAY English Communication Ⅲ				
補助教材		abceed, 必修英単語LEAP, Focus on Listening standard				
目標	科目	日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 1. 必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ち、課題の解決策などを複数のまとまりのある文で詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させたり、複数のまとまりのある文で詳しく話して伝え合ったりすることができる。 4. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数のまとまりのある文で論理的に詳しく話して伝えることができる。 5. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。				
	資力・能	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	[知識] 必要な情報を聞き取る/読み取るストラテジーを理解している。 [技能] [L] 本文について、聞き取る技能を身に付けている。 [R] 本文を、読み取る技能を身に付けている。 [Sや] 情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合う技能を身に付けている。 [S読] 情報や考え、気持ちなどを、論理的に詳しく話して伝える技能を身に付けている。 [W] 情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。		[L] 必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えている。 [R] 本文を読んで、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えている。 [Sや] スペリングコンテストについて理解を深めるために、スペリングコンテストに出場してみたいかについて、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合い、会話を発展させている。 [S読] 情報や考え、気持ちなどを、論理的に詳しく話して伝えている。 [W] 情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えている。		[L] 本文を聞いて、必要な情報を聞き取り、主体的に話の展開や話し手の意図を捉えようとしている。 [R] 文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、主体的に概要や要点、詳細を捉えようとしている。 [Sや] 多様な語句や文を用いて、主体的に情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合い、会話を発展させようとしている。 [S読] 主体的に、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えようとしている。 [W] 主体的に情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えようとしている。	
評価の方法		・ポートフォリオ ・小テスト ・定期考査 ・パフォーマンステスト		・パフォーマンステスト ・小テスト ・定期考査 ・ポートフォリオ		・定期考査 ・ポートフォリオ ・パフォーマンステスト

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	S1 L Spelling Bees R Blended Words S2 L Green Roofs R London—National Park City S3 L Robotic Pets R Flying Cars S4 L Buckwheat in the World R Insects: Food for Future	・必要な情報を聞き取る / 読み取る ・意味のまとまりごとに理解する ・キーワードや内容語から概要を把握する ・視覚情報を利用して聞き取る、読み取る	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えることができる。 [R] 本文を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、自分の考えを詳しく話して伝え合い、会話を発展させることができる。 [S読] 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えることができる。
6-8	24	S5 L May Day R Dragon Boat Racing S6 L Mere Exposure Effect R Placebo Effects S7 L Amazing Abilities of Animals R The Mine-Detecting Rat: Magawa S8 L Actions for Saving Children	・論理の展開を把握する（列挙・例示） ・論理の展開を把握する（原因・結果） ・話の要点を理解する ・話者や筆者の意図を推測する	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えることができる。 [R] 本文の関するの記事等を読み、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合い、会話を発展させることができる。 [S読] 題材について、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 題材の利点、欠点について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書くことができる。
前期期末考査							
9-11	44	L1 "Priceless" Cafe, "Priceless" Community L2 Nihonium —A New Element Born in Japan L3 Tea in the Desert Climate L4 The Benefits of Origami L5 The Mysteries of English Spelling	・関係代名詞（主格） / 付帯状況with ・関係副詞 / 現在完了進行形 / 強調構文 ・現在完了 / 関係代名詞の非制限用法 / help+0+動詞の原形 / 助動詞のついた受け身 ・関係代名詞（主格） / 省略	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えることができる。 [R] 本文を読み、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 [S読] 題材についてグループで話し合った内容を基に、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 題材の利点・欠点について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えることができる。
後期中間考査							
12-3	40	L6 New Discovery in the Nasca Lines L7 Today's Trash is Tomorrow's Treasure L8 Nap Time at School L9 Dog Tax L10 Space Development	・現在完了の受け身 / 過去完了の受け身 / 分詞構文 ・現在完了進行形 / 過去完了の受け身 / 分詞構文 ・前置詞+関係代名詞 / 分詞構文 / 比較 / 仮定法 ・関係代名詞の非制限用法 / 仮定法 ・関係代名詞の非制限用法 / 助動詞+受け身 / 現在完了の受け身 / 現在完了進行形	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 [R] 本文を読んで、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 [S読] 題材についてグループで話し合った内容を基に、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えることができる。
(後期期末考査)							
合計	140						

3年次		選択33、38				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		英語研究	2	選択授業	茨目 哲也 ・ 佐藤 拓道	
教科書		なし				
補助教材		共通テスト 共通テスト英語 読解トレーニング・リスニング 分野別 10min.・改訂版 Reading Gym 英語速読テスト 入試編				
目標	科目	社会的な話題を読むことや、聞くことを通じて自分の考えを書いたり、既習の語句や文法事項を応用し、書いたり話したりすることができる。また、言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学んだ文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。		読んだり聞いたりしたことについて情報や考えを分かりやすく伝える。英語で書かれた文章や英語で話された話の概要や要点を目的に応じて捉えることができる。		・自分の意見を伝えるために他者とコミュニケーションを図ろうとする。 ・積極的な態度で言語活動に参加する。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査		・定期考査（初見英文読解、リスニング） ・ライティングワーク ・定期考査（英作文など）		・ペアワークやグループワーク	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	読解トレーニング 1-5 リスニング 第1-9回 Reading Gym 1-6	・情報検索、意見把握、概要把握 ・リスニングの基礎力養成のために、話される速さや語句、情報量を分析し、理解を確認しながら聞き取る。	◎	○	○	<読むこと> ・文法事項に注目しながら、英文の構造を理解し、的確に情報を検索したり、意見や概要を把握することができる。 <聞くこと> ・英文から必要な情報を聞き取り、内容や意見を把握することができる。
6-8	12	読解トレーニング 6-10 リスニング 第10-19回 Reading Gym 7-12	・長文読解、図表読解、情報整理 ・リスニングの実践力養成のために、情報量が大きく、話題や展開が複雑な内容を想定して聞き取り、反復することで理解を深める。	◎	○	○	<読むこと> ・社会的な話題について、長文や図表を読解し、情報を整理しながら概要や要点を捉えることができる。 <聞くこと> ・英文から必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 <話すこと（やりとり）> ・社会的な話題について、読んだり聞いたりしたことを基に、情報や考え、解決策などを論理的に話して伝え合うことができる。
		前期期末考査					
9-11	22	読解トレーニング 11-15 リスニング 第20-29回 Reading Gym 13-18	・情報検索、意見把握、図表読解、長文読解 ・リスニングの実践力養成のために、情報量がさらに多く、話題や展開がより複雑になる場合を想定して聞き取り、同様の内容を復習することで理解を深める。	○	◎	◎	<読むこと> ・学術的な内容を含む話題やさまざまな事象を扱う英文について、これまでの学習活動で身に付けた力を活用しながら多面的・多角的に読み取ることができる。 <聞くこと> ・話の展開に注意しながら英文から必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 <話すこと（発表）> ・学術的な内容を含む話題やさまざまな事象を含む内容について、複数の視点や立場から、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。
		後期中間考査					
12-3	20	読解トレーニング 16-20 リスニング 第1回30分テスト 第2回30分テスト Reading Gym 19-24	・長文読解、図表読解、情報整理 ・リスニングの総合的な実践力養成のために、自力で目的を達成できるように、より実践的な課題に取り組む。	○	◎	◎	<書くこと> ・読んだり聞いたりしたことを基に、日常的な話題から社会的な話題にいたるまで、情報や考え、気持ちなどを複数の段落からなる文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。
		(後期期末考査)					
合計	70						

3 年次		選択 3 4				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
外国語		英語発展		2	選択授業	佐藤 拓道
教科書		なし				
補助教材		五訂版 UNITE 英語総合問題集 STAGE 2				
目標	科目	語彙力や読解力など総合的な英語の力を身につけ、実践的な問題を解くことができるように学力の向上を図るとともに、社会的な話題を読み、テーマについて自分の考えを論理的に述べることができるようになる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	言語や文化、社会情勢の知識を身につける。 文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。			英文の意味や内容を速く、的確に把握する。 各文法項目について理解・整理し、自分の考えを論理的に英語で表現する。		積極的な態度で言語活動に参加し、社会的な話題について他人の意見を理解しようとする。
評価の方法	・小テスト ・定期考査			・問いに対する応答 ・定期考査 ・文法項目を用いた英作文		・ペアワークやグループワーク ・設問への取り組み状況 ・課題提出

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	LESSON 1-4	文型 時制 完了形 助動詞	◎	○	◎	- 文の構成要素について理解することができる。 - 適切な時制で表現することができる。 - 完了形の用法や意味を理解し、表現することができる。 - 助動詞の用法や意味を判断し、表現することができる。
6-8	12	LESSON 5-8	受動態 不定詞 (1) 不定詞 (2) 動名詞	◎	○	◎	- 受動態の文構造を理解し、適切に書き換えることができる。 - 不定詞の用法を整理し、場面に応じて表現することができる。 - 動名詞を含んだ表現を整理することができる。
前期期末考査							
9-11	22	LESSON 9-12	分詞・分詞構文 準動詞のまとめ 比較 関係詞 (1)	◎	○	◎	- 現在分詞、過去分詞を用いて表現することができる。 - 不定詞、動名詞、分詞について適切な表現を用いることができる。 - 比較表現を用いて比較級、最上級を表現することができる。 - 関係代名詞の特徴を理解し、表現することができる。
後期中間考査							
12-3	20	LESSON 13-15	関係詞 (2) 仮定法 (1) 仮定法 (2)	◎	○	◎	- 関係副詞の特徴を理解し、表現することができる。 - 仮定法を理解し、状況に応じて適切に表現することができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
外国語		英語探究	2	選択授業		茨目 哲也
教科書		なし				
補助教材		五訂版 UNITE 英語総合問題集 STAGE 3				
目標	科目	基本的な語句や文を用いて場面に応じた表現を工夫しながら書いたり話したりすることができるようになる。日常的なテーマや社会的な話題について、書き手や話し手の意向を理解し、自分の考えを述べるようになる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。 積極的な態度で言語活動に参加する。		・読んだり聞いたりしたことについて情報や考えを 分かりやすく伝える。 ・英語で書かれた文章や英語で話された話の概要や 要点を目的に応じて捉えることができる。		・学んだ文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。	
評価の方法	・ペアワークやグループワーク ・設問への取り組み状況		・スピーキングテスト ・ライティングワーク ・定期考査（英作文、初見英文読解、リスニングなど）		・小テスト ・定期考査 ・提出ノート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4	グラフ・時制 生物・助動詞 Eメール・完了形 社会生活・不定詞	○	◎	◎	・英語で書かれた文章特有の構成を知り、基本的な語彙・文法を踏まえて、読解に活かすことができる。 ・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取り、自分の考えを述べる ことができる。
6-8	12	Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8	環境・分詞構文 社会・独立分詞構文 環境・比較級 歴史・関係代名詞	◎	◎	○	・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 ・各Lessonについて自分の意見や考えを述べる ことができる。
前期期末考査							
9-11	22	Lesson 9 Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12	文化・関係副詞 グラフ・仮定法 社会・2重否定 広告・強調構文	○	◎	◎	・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 ・各Lessonについて自分の意見や考えを述べる ことができる。
後期中間考査							
12-3	20	Lesson 13 Lesson 14 Optional Lesson 1, 2	科学・名詞 社会・接続詞 数学・総合問題 社会・総合問題	◎	◎	○	・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 ・日常的なテーマや社会的な話題について自分の意見や考えを論理的な 構成で述べる ことができる。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次		選択 3 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		実践英語	3	選択授業	森田 友江 ・ 相馬 隆行	
教科書		なし				
補助教材		TREASURE HUNT 3 New Edition Scramble Basic 3rd Edition				
目 標	科 目	語彙力や読解力などの総合的な英語力を身につけ、実践的な問題を解くことができるように学力の向上を図るとともに、日常的、社会的なテーマについて自分の考えを述べるができるようになる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 言語や文化、社会情勢の知識を身につける。 ・ 文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。		・ 英文の意味や内容を速く、的確に把握する。 ・ 各文法項目について理解・整理し、伝えたいことを英語で表現する。		・ 他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。 ・ 積極的な態度で言語活動に参加する。	
評価の方法	・ 小テスト ・ 定期考査		・ 問いに対する応答 ・ 定期考査 ・ 文法項目を用いた英作文		・ ペアワークやグループワーク ・ 設問への取り組み状況 ・ 課題提出	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	UNIT 1~4	言い換え、省略・時制 キーワード・完了形 グラフ、表・助動詞 情報の整理・受動態	◎	○	◎	・ 適切な時制で表現することができる。 ・ 完了形の用法や意味を理解し、表現することができる。 ・ 助動詞の用法や意味を判断し、表現することができる。 ・ 受動態の文構造を理解し、適切に書き換えることができる。
6-8	18	UNIT 5~7	登場人物の心情・不定詞 話の流れ・不定詞、動名詞 段落の要旨・分詞①	◎	○	◎	・ 不定詞の用法を整理し、場面に応じて表現することができる。 ・ 動名詞を含んだ表現を整理することができる。 ・ 現在分詞、過去分詞を用いて表現することができる。
前期期末考査							
9-11	33	UNIT 8~12	説明文の構造・分詞② 言い換え・関係詞① 情報の整理・関係詞② つながれた語句・比較①	◎	○	◎	・ 分詞を理解し、適切に表現することができる。 ・ 関係代名詞、関係副詞の特徴を理解し、表現することができる。 ・ 比較表現を用いて比較級、最上級を表現することができる。
後期中間考査			速読・比較②				
12-3	30	UNIT 13~15	段落のつながり・仮定法① 情報の整理・仮定法② 段落内の構造・英文の読み方	◎	○	◎	・ 仮定法を理解し、時制に応じて表現することができる。 ・ 前置詞を理解し、表現することができる。 ・ 接続詞を使い分け、活用することができる。
(後期期末考査)							
合計	105						

3 年次	選択 3 5				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語	英語教養	2	選択授業	森田 友江 ・ 相馬 隆行	
教科書	なし				
補助教材	TAGAKI Advanced 2 Around the World (mpi)				
目標	科目	英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身に付ける。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	情報伝達のために必要な語彙や文法知識を習得し、伝えたい情報をまとめることができる。		自らの発信のために必要な情報を的確に理解・収集し、まとめることができる。また集めた情報を元に、相手に伝わりやすい表現や構成で発信することができる。		他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。積極的な態度で言語活動に参加する。
	評価の方法		・ライティングワーク（英作文課題） ・パフォーマンステスト		・ペアワークやグループワーク

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	それぞれのレッスンでトピックに沿ってその国のことを検索し、発信する。 ・Adventures(Angola) ・Architecture(Austria) ・Birds(Belize)	○	○	◎	<話すこと（やりとり）> ・英語でのやり取りの場面例から、必要な表現・語彙を習得することができる。 <話すこと（発表）> ・既習事項を踏まえ、テーマに沿った内容を、テンプレートを元に英語を用いて発信できる。
6-8	12	Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6 (前期期末考査)	・Capitals(Bosnia and Herzegovina) ・Celebrities(Cambodia) ・Climate(Chile)	○	◎	○	<話すこと（やりとり）> ・自分の意見を即時にかつ簡潔に口頭で相手に伝えることができる。 <聞くこと> ・話し手の発信に対し、相づちや質問を交えて適切に理解することができる。
9-11	22	Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 (後期中間考査)	・Currencies(Costa Rica) ・Desserts(Dominican Republic) ・Drinks(Egypt)	○	◎	○	<書くこと> ・自分の発信のために的確な情報収集をし、わかりやすい構成で内容をまとめることができる。 <話すこと（発表）> ・英語による効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
12-3	20	Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12 (後期期末考査)	・Education(Georgia) ・Fashion(Ghana) ・Festivals(india)	○	◎	○	
合計	70						

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
家庭		保育基礎	2	選択授業	坂 上 真 子	
教科書		保育基礎				
補助教材		なし				
目 標	科 目	保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組む、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。	
評価の方法	・小テスト ・実習における達成度 ・作品評価		・発表や発言の状況 ・グループ評価・課題の取り組み状況 ・相互評価 ・想像的課題に対する取り組み		・授業中の取り組み状況 ・課題への取り組み状況 ・提出物	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	1 章 子どもの保育 1 節 保育の意義 1 保育とは 2 保育の意義 2 節 保育の方法 1 保育者の役割とは 2 一人ひとりに合わせた指導 2 章 子どもの発達 1 節 子どもの発達の特性 1 発達と保育	・保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。 ・保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。	○ ○	○ ○	○ ○	・保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気を付けていけばよいかなど、考察ができる。 発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。
6-8	12	2 発達との共通性と個別性 2 節 子どものからだの発達 1 発育・発達の評価 2 身体的特徴 3 生理的特徴 (製作実習：名札)	・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個別性といった特性があることを理解する。 ・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。	○ ○	○ ○	○	・乳幼児の身体的特徴と生理的特徴及びその変化に関する知識を身につけている。 ・誕生から幼児期までの子どもの身体発育、運動機能、認知機能などそれぞれの発達の特性について理解している。
(前期期末考査)							
9-11	22	3 節 子どもの心の発達 1 社会・情緒的な発達 2 知的発達 3 言葉の発達 4 章 子どもの文化 子どもの文化と意義を支える場 1 節 子どもの文化の意義と支える場 1 子どもの文化 2 子どもの文化を支える場	・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。 ・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。 ・絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。	○ ○	○ ○	○	・子どもの心の発達の特徴と発達の経過について理解している。 ・人間関係の発達については乳児期の愛着の発達が重要であり、安全基地を土台として人間関係が広がっていくことを理解している。 子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。
(後期中間考査)							
12-3	20	2 節 子どもの遊びと表現活動 1 遊びと発達 2 遊びと表現活動 (伝承遊び体験、絵本) 3 節 保育の環境 1 家庭での保育 2 幼児教育・保育の場 3 子どもが育つ環境の変化と課題	・子どもの遊びと遊びや表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊び等を作るなどの活動を通じて理解する。 ・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。 ・家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場(幼稚園や保育所、認定こども園など)の保育環境の特徴や役割を理解する。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。	○ ○	○ ○	○ ○	・遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。 ・子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊び等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。 ・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。
(後期期末考査)							
合計	70						

3 年次	選択 3 7				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
家庭	フードデザイン	2	選択授業	坂 上 真 子	
教科書	フードデザイン				
補助教材	なし				
目 標	科 目	・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	資 質・能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。		多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。
	・小テスト ・実習における達成度 ・作品評価		・発表や発言の状況 ・グループ評価・課題の取り組み状況 ・相互評価 ・想像的課題に対する取り組み		・授業中の取り組み状況 ・課題への取り組み状況 ・提出物

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	2章 栄養素の働きと食事計画 1節 栄養素のはたらき 1項 食物の摂取と栄養 2項 炭水化物 3項 脂質 4項 たんぱく質 5項 ミネラル 6項 ビタミン 6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 1項 日常食の献立作成条件 2項 日常食の献立作成の手順	・人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを把握させる。 ・各種栄養素の特徴と体内のはたらき、代謝について理解させる。 ・アミノ酸スコアパターン、アミノ酸スコアについて理解させる。 ・調理上の基本的事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	○	○	○	・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの種類とはたらきについての知識を習得することができる。消化・吸収について理解している。 ・からだの中でそれぞれの栄養素がどのようなはたらきをしているのかを考えることができる。 ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの種類とはたらき、栄養素の消化のしくみに関心を持とうとしている。 ・機能性成分にはどのようなものがあるか知ろうとしている。 ・基礎的な調理題材について、計画し、つくることができる。 ・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。
6-8	12	4章 調理の基本 1節 調理のおいしさ 1項 調理の目的 2項 食べ物のおいしさ 3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質	・何のために調理するのかを理解させる。 ・おいしさにかかわる条件を知り、調理にいかせるようにする。 ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理にいかせる。 ・計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具ごとの特徴などについて、具体的な知識と技術を身につけさせる。 ・穀類、砂糖、大豆・豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等様々な食品について、それぞれの特徴を把握させる。	○	◎	○	・調理の目的とおいしさにかかわる要因について理解している。 ・日常食、行食事、供食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。
(前期期末考査)							
9-11	22	3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質 6章 フードデザイン実習	・これらの食品について、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。 ・加工食品の加工方法や種類について理解させる。 ・特定保健食品などについて把握させる。	○	○	○	・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。 ・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。
(後期中間考査)							
12-3	20	3項 供食・行食事 4項 テーマ設定と調理実習 敬老の日、クリスマス、正月、桃の節句、子ども日	・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行食事など用途に適した献立が作成できる。 ・これまで身につけた知識を調理にいかし、手順よくつくることのできるようになる。 ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる。	◎	○	○	・食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理、テーブルコーディネートと料理のサービス方法など、一連の流れを計画し実践ができる。 ・具体的な食事テーマの設定、目的に応じた献立作成、献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解できる。
(後期期末考査)							
合計	70						

3年次	選択36				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
情報	情報II	2	クラス単位	山下 賢一・本間 至	
教科書	実教出版 情報II				
補助教材					
目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 多様なコミュニケーションの状況、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報と結び付けるとして読み、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。				
資質・能力	自己開示力	問題発見力	段取り力	思考力	発信力
	自分を知り、学ぶとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>
	情報と情報技術についての知識と技能。情報と情報技術を活用して問題の発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と社会の変化について理解を深め、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する態度を養う。		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報と結び付けるとして読み、問題の発見・解決に向けて新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。		情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を適切に活用することによって情報社会に主体的に参画する態度を養う。
評価の方法	レポート・小テスト・理解度チェック		レポート・プレゼンテーション・提出作品・課題		自己評価・振り返り・（課題）

年間計画		◎特に重視する ◎重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	12	第1章 情報社会	・情報社会の変化について理解している。 ・情報技術が進展することによる社会の変化に興味・関心を示している。 ・IoTとAIの技術について理解している。 ・新しい通信技術についての特徴を理解し、それを支える技術を理解している。 ・知的活動の変化を理解し、説明することができる。 ・メディアとさまざまなコンテンツ ・コミュニケーションの多様化 ・コンテンツの制作	○	◎	◎
6-8	15	第2章 データサイエンスと社会	・データサイエンスの要素技術や実社会における応用について理解している。 ・データサイエンスのスキルセットについて理解している。 ・実社会の問題に対してデータサイエンス技術の応用に興味・関心を示している。 ・データ分析に基づく問題解決のプロセスについて理解している。 ・探索的なデータ分析の概念について理解している。 ・量的データと質的データの概念を理解している。 ・量的データと質的データについてそれぞれ具体例を示しながら説明できる。 ・データ収集におけるバイアスの概念について理解している。 ・データ収集におけるバイアスの種類と事例について説明できる。 ・データ収集におけるバイアスの概念について理解している。	○	○	○
9-11	22	第3章 プログラミング言語	・JavaScriptのプログラムの文法を理解している。 ・JavaScriptのプログラムの文法に従って、正しく記述できる。 ・Pythonの基礎 ・Pythonのモジュール	○	○	◎
12-3	21	第4章 情報システム	・情報システムの概要 ・社会の中の情報システム ・情報システムの分類 ・情報システムの開発 ・設計手法 ・Webシステムの仕組み ・データの送受信の方法	○	○	◎
合計	70					

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
情報		情報研究	2	選択授業		本間 至 ・ 岩谷 義久
教科書		なし				
補助教材		なし				
目標	科目	ホームページ作成、プログラミング、画像処理等を学び、情報発信の基礎を学ぶ。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能 <習得>		思考・判断・表現 <活用>		主体的に学習に取り組む態度 <探究>	
	各ソフトウェアの特徴を理解し操作できる。		収集した情報や経験から（インプット）、各自で考えた（思考）内容をソフトウェア上に表現し、分りやすく相手に伝えることができる（アウトプット）。		自ら進んで、情報を収集し、各自の作品やプレゼンテーションに活かそうとすることができる。	
評価の方法	レポート提出 課題提出		プレゼンテーション 課題提出		授業態度 プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	画像処理	○画像処理の基本 ○動画作成 ○グループ発表	◎ ◎	◎	○	・写真を加工し、画像処理の基本操作ができる。 ・動画作成の基本操作ができる。 ・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。
6-8	12	ホームページ作成 プログラミング1	○ホームページ作成の基礎 ○バーチャル水族館（他） ○グループ発表 ○プログラムの基本	◎ ○ ◎	◎ ◎	○	・ホームページビルダーソフトウェアの基本操作ができる。 ・ソフトウェアを活用しオリジナルの作品を作成できる。 ・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。 ・スクラッチでフローチャートを理解する。 ・スクラッチの基本操作を理解する。 ・スクラッチで簡単なプログラムを組める。 ・スクラッチを理解し変数を操作できる。
(前期期末考査)							
9-11	22	プログラミング2 VR/AR/MR	○グループ発表 ○様々なプログラム ○Society5.0	◎ ◎	◎	○	・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。 ・パイソン他のプログラム言語の基本活用ができる。 ・現代社会とプログラムの役割に気付く事ができる。
(後期中間考査)							
12-3	20		○グループ発表		◎	○	・分かりやすく相手に伝わる発表ができる。
(後期期末考査)							

合計 70